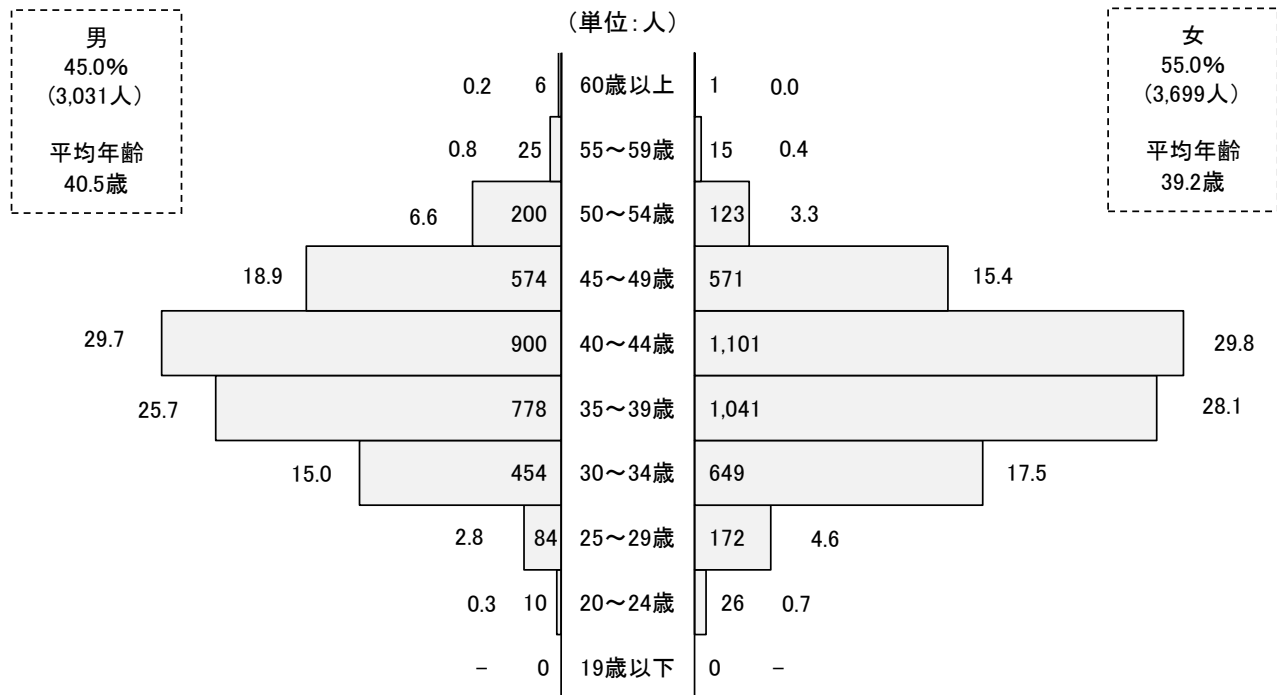


第3部 子育てに関する実態と意識

本章では、小学生までの子供を養育する世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯の子供の父母（養育者を含む。）のうち、回答のあった 6,730 人の状況と意識について述べる。

○ 回答者の性・年齢階級

回答者の平均年齢は、男性が 40.5 歳、女性が 39.2 歳となっている。



第1章 就労について

1 就労の状況

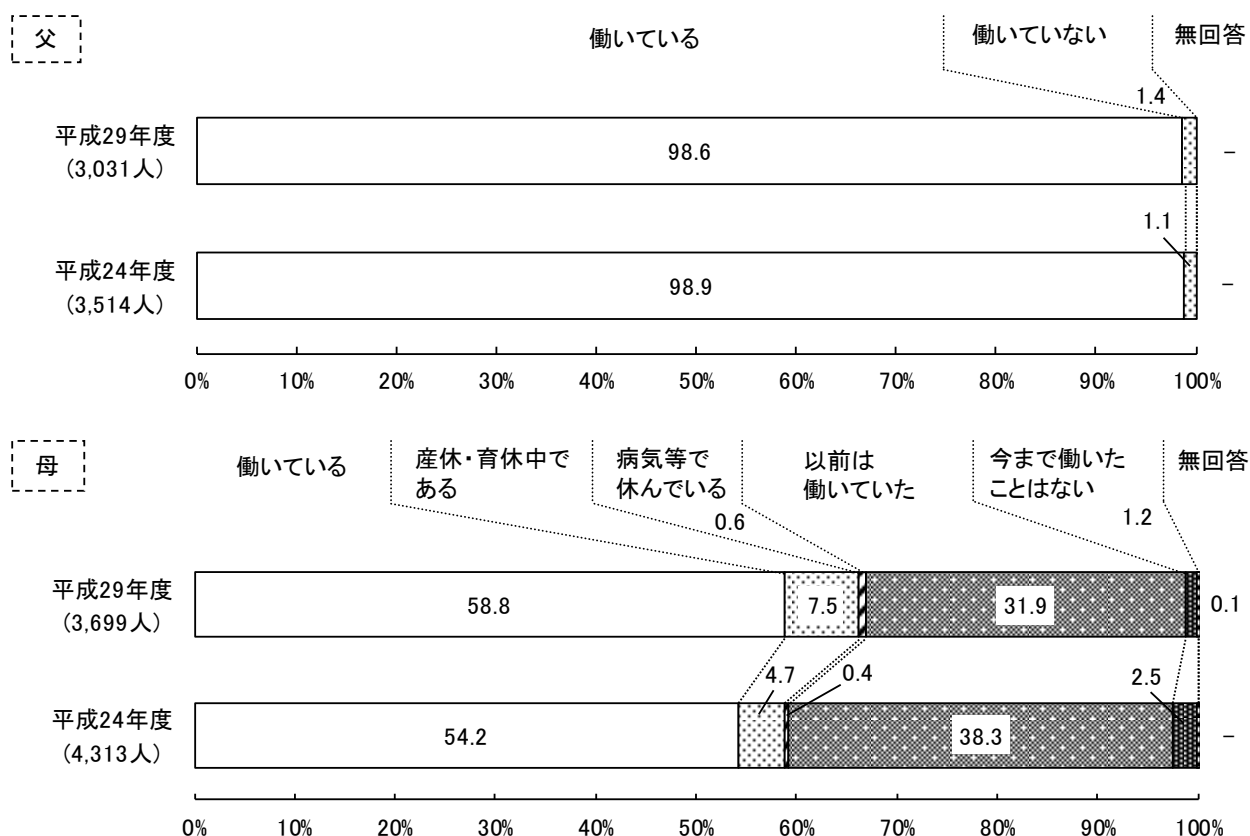
(1) 就労の状況－24年度調査との比較

母の「働いている」割合は5割超

対象者全員に就労の状況を聞いたところ、「働いている」の割合は、父が98.6%、母は58.8%となっている。また、母は、「産休・育休中である」の割合が7.5%、「以前は働いていた」の割合は31.9%となっている。

24年度調査と比較すると、母の「働いている」の割合は4.6ポイント増加している一方で、「以前は働いていた」の割合は6.4ポイント減少している。(図Ⅲ-1-1)

図Ⅲ-1-1 就労の状況－24年度調査との比較



(注) 父の「産休・育休中である」「病気等で休んでいる」「以前は働いていた」「今まで働いたことはない」の4項目については、いずれも該当なし又は少数であったため、「働いていない」としてまとめている。

(2) 就労の状況－性・年齢階級別

母の「働いている」の割合は、「45～49 歳」以上の階級では、いずれも 7 割強

就労の状況を性・年齢階級別にみると、父の「働いている」割合は、全ての階級で、90%以上となっている（93.5%～100.0%）。

母の「働いている」の割合は、「45～49 歳」以上の各階級では、いずれも 70%以上となっている（72.2%～81.3%）。（表Ⅲ-1-1）

表Ⅲ-1-1 就労の状況－性・年齢階級別

	総 数	働 い て い る	働 い て い ない	あ る 産 休 ・ 育 休 中 で	い る 病 気 等 で 休 ん で	以 前 は 働 い て い た	は 今 ま で 働 い た こ と は な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	76.7	23.2	4.2	0.5	17.9	0.7	0.0
父	100.0 (3,031)	98.6	1.4	0.2	0.3	0.9	－	－
29歳以下	100.0 (94)	<u>100.0</u>	－	－	－	－	－	－
30～34歳	100.0 (454)	<u>99.1</u>	0.9	0.2	－	0.7	－	－
35～39歳	100.0 (778)	<u>98.3</u>	1.7	0.4	0.3	1.0	－	－
40～44歳	100.0 (900)	<u>99.2</u>	0.8	0.1	0.3	0.3	－	－
45～49歳	100.0 (574)	<u>98.1</u>	1.9	－	0.7	1.2	－	－
50～54歳	100.0 (200)	<u>98.0</u>	2.0	－	0.5	1.5	－	－
55歳以上	100.0 (31)	<u>93.5</u>	6.5	－	－	6.5	－	－
母	100.0 (3,699)	58.8	41.1	7.5	0.6	31.9	1.2	0.1
29歳以下	100.0 (198)	45.5	54.0	16.2	－	33.8	4.0	0.5
30～34歳	100.0 (649)	44.7	55.3	16.2	0.9	36.5	1.7	－
35～39歳	100.0 (1,041)	54.9	45.1	10.4	0.8	32.9	1.1	－
40～44歳	100.0 (1,101)	64.3	35.6	2.6	0.2	32.2	0.5	0.1
45～49歳	100.0 (571)	<u>72.2</u>	27.7	0.5	0.7	25.6	0.9	0.2
50～54歳	100.0 (123)	<u>73.2</u>	26.8	－	1.6	22.8	2.4	－
55歳以上	100.0 (16)	<u>81.3</u>	18.8	－	－	18.8	－	－

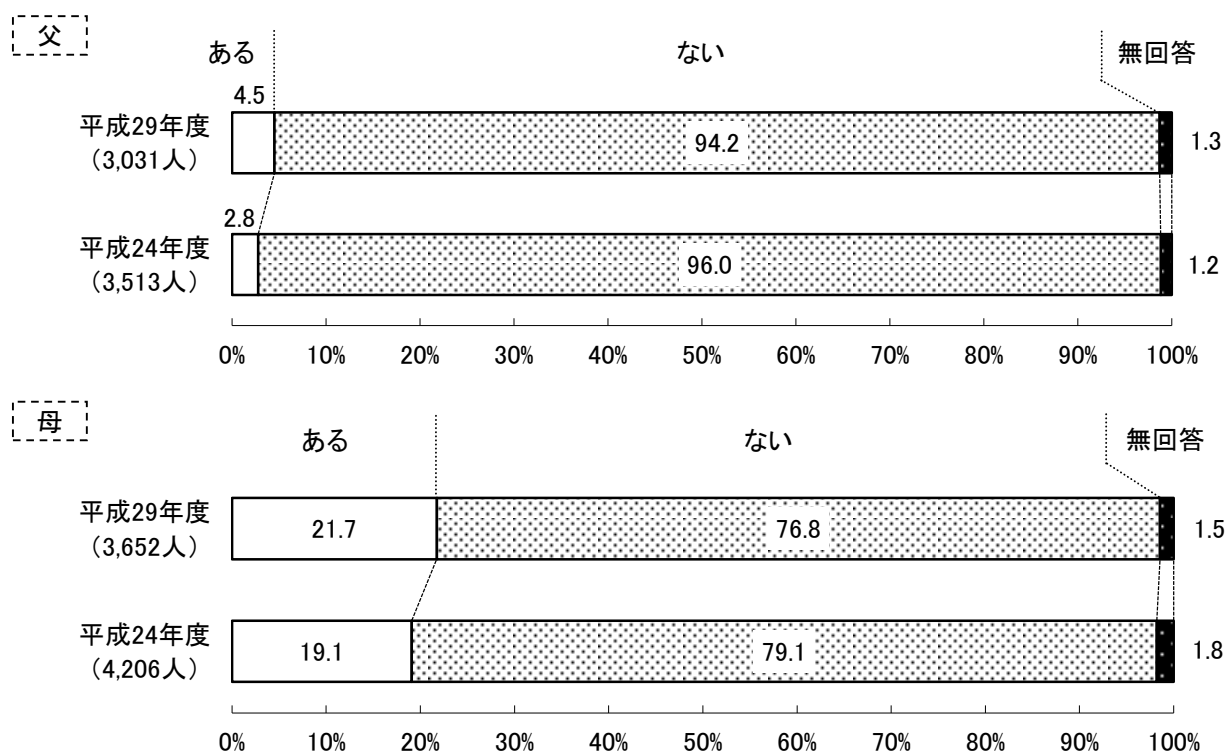
2 子育てを理由とした転職の有無

(1) 子育てを理由とした転職の有無－24 年度調査との比較

「ある」の割合は、母が 2 割強

就労状況で「今まで働いたことはない」と回答した父母と「無回答」を除いた父母（6,683 人）に子育てを理由として転職したことがあるか聞いたところ、「ある」の割合は、父が 4.5%、母は 21.7%となっている。（図Ⅲ-1-2）

図Ⅲ-1-2 子育てを理由とした転職の有無－24 年度調査との比較



(2) 子育てを理由とした転職の有無一性・年齢階級別

母の「はい」の割合は、「40～44 歳」以下の各階級では、階級が上がるにつれ高くなり、「50 歳以上」では 3 割強

子育てを理由とした転職の有無を性・年齢階級別にみると、父は「29 歳以下」で「はい」の割合が 10.6%となっており、父の総数の割合（4.5%）よりも 6.1 ポイント高くなっている。

母の「はい」の割合は、「40～44 歳」以下の各階級では、階級が上がるにつれ高くなっている（12.2%～24.5%）。また、「50 歳以上」では「はい」の割合が 34.6%となっており、母の総数の割合（21.7%）よりも 12.9 ポイント高くなっている。（表Ⅲ-1-2）

表Ⅲ-1-2 子育てを理由とした転職の有無一性・年齢階級別

	総 数	は い	い い え	無 回 答
総数	100.0 (6,683)	13.9	84.7	1.4
父	100.0 (3,031)	<u>4.5</u>	94.2	1.3
29歳以下	100.0 (94)	<u>10.6</u>	88.3	1.1
30～34歳	100.0 (454)	4.6	94.1	1.3
35～39歳	100.0 (778)	5.5	93.7	0.8
40～44歳	100.0 (900)	3.7	94.6	1.8
45～49歳	100.0 (574)	4.4	94.4	1.2
50歳以上	100.0 (231)	2.2	96.5	1.3
母	100.0 (3,652)	<u>21.7</u>	76.8	1.5
29歳以下	100.0 (189)	<u>12.2</u>	87.3	0.5
30～34歳	100.0 (638)	<u>16.9</u>	80.9	2.2
35～39歳	100.0 (1,030)	<u>19.4</u>	78.9	1.7
40～44歳	100.0 (1,094)	<u>24.5</u>	74.5	1.0
45～49歳	100.0 (565)	26.2	72.4	1.4
50歳以上	100.0 (136)	<u>34.6</u>	64.0	1.5

(3) 子育てを理由とした転職の有無―世帯類型（母子・父子世帯）別

「はい」の割合は、両親世帯が1割強、ひとり親世帯は3割超

子育てを理由とした転職の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「はい」の割合は、ひとり親世帯が35.3%、両親世帯は12.1%で、ひとり親世帯の方が23.2ポイント高くなっている。

また、「はい」の割合は、母子世帯が37.9%、父子世帯は12.7%で、母子世帯の方が25.2ポイント高くなっている。（表Ⅲ-1-3）

表Ⅲ-1-3 子育てを理由とした転職の有無―世帯類型（母子・父子世帯）別

	総 数	は い	い い え	無 回 答
総数	100.0 (6,683)	13.9	84.7	1.4
両親世帯	100.0 (6,148)	12.1	86.6	1.4
ひとり親世帯	100.0 (535)	35.3	63.2	1.5
母子世帯	100.0 (480)	37.9	60.6	1.5
父子世帯	100.0 (55)	12.7	85.5	1.8

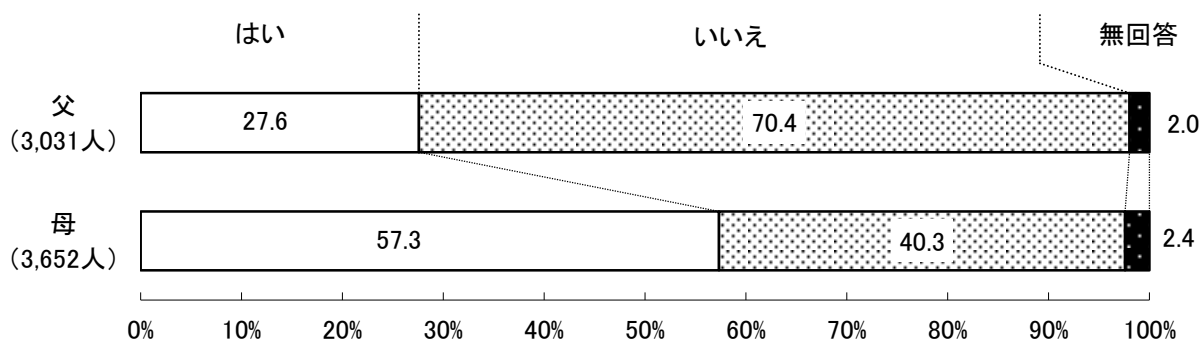
3 勤務時間の調整の有無

(1) 勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む。）の有無

「はい」の割合は、父が2割超、母が5割超

就労状況で「今まで働いたことはない」と回答した父母と「無回答」を除いた父母（6,683人）に、子育てを理由に、勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む。）があるかを聞いたところ、「はい」の割合は、父が27.6%、母は57.3%である。（図Ⅲ-1-3）

図Ⅲ-1-3 勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む。）の有無



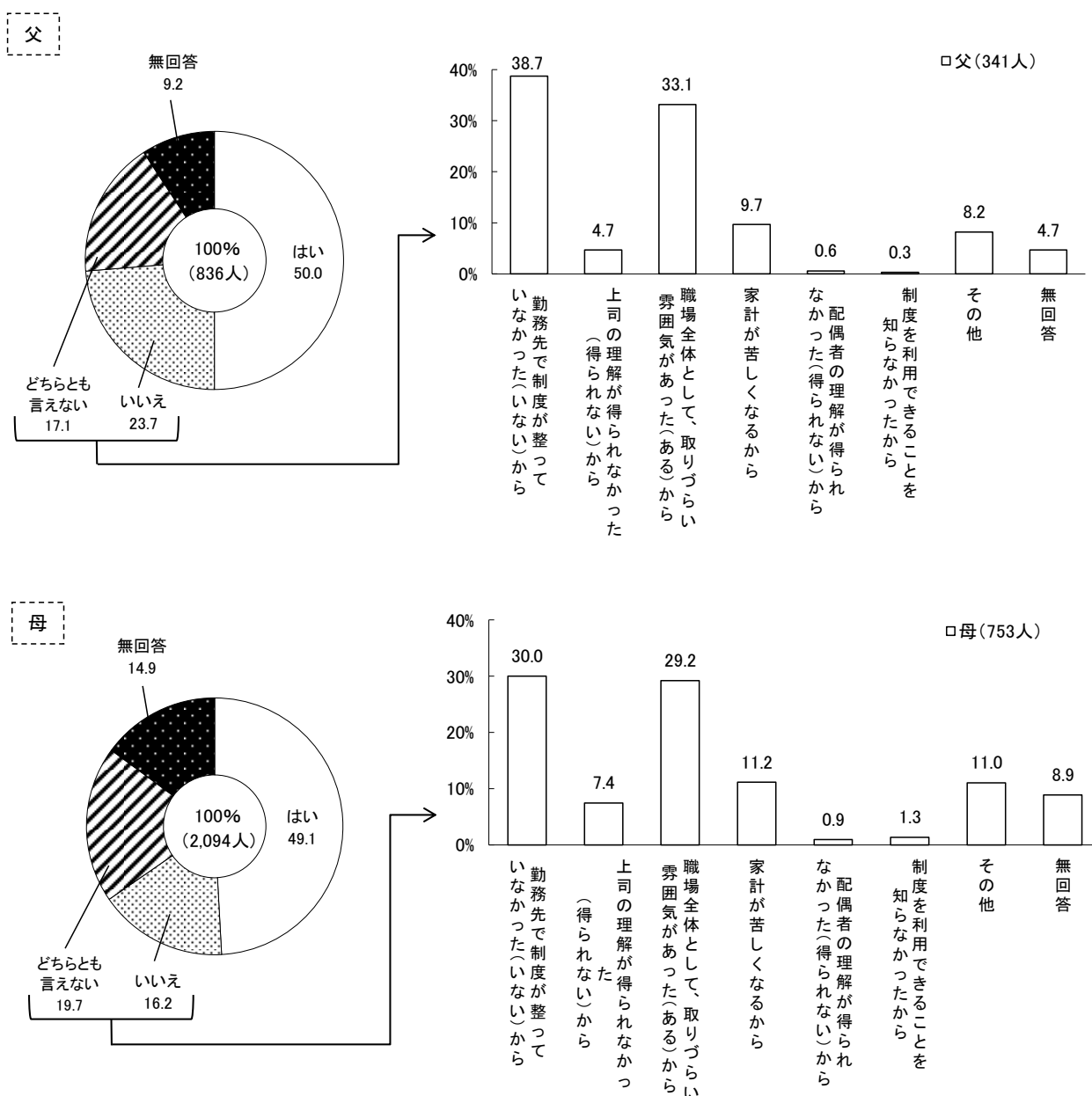
(2) 勤務時間の調整は十分できたか及びできなかった理由

勤務時間の調整が十分にできた（できる）人は父母とも約5割

勤務時間の調整が必要だった経験（予定も含む。）がある父母（2,930人）に、調整は十分できた（できる）と思うか聞いたところ、父母ともに「はい」の割合が最も高く、父が50.0%、母は49.1%となっている。

さらに、「いいえ」又は「どちらとも言えない」と回答した人（1,094人）に、その理由を聞いたところ、父母ともに「勤務先で制度が整っていなかった（いない）から」の割合が最も高く、父が38.7%、母は30.0%となっている。次いで「職場全体として、取りづらい雰囲気があった（ある）から」の割合が高く、父が33.1%、母は29.2%となっている。（図Ⅲ-1-4）

図Ⅲ-1-4 勤務時間の調整は十分できたか及びできなかった理由



4 仕事をやめた理由

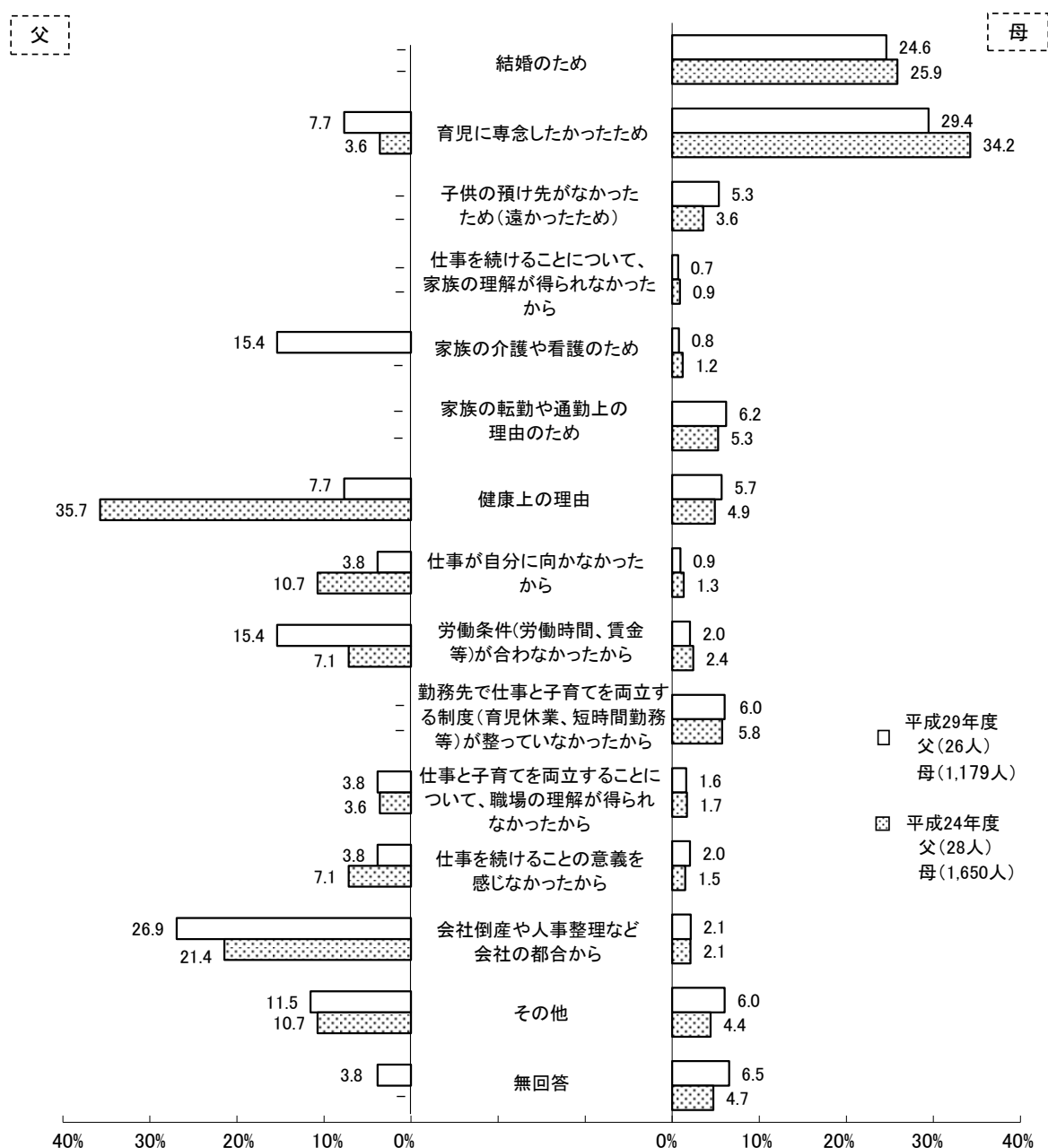
(1) 仕事をやめた理由－24年度調査との比較

母の「育児に専念したかったため」は24年度調査から4.8ポイント減少し、約3割

就労状況で、「以前は働いていた」と回答した父母(1,205人)に、仕事をやめた理由を聞いたところ、父は、「会社倒産や人事整理など会社の都合から」の割合が26.9%で最も高くなっている。

母は、「育児に専念したかったため」の割合が29.4%で最も高く、次いで「結婚のため」が24.6%となっている。24年度調査と比べて、母の「育児に専念したかったため」は、4.8ポイント、「結婚のため」は1.3ポイント低くなっている。(図Ⅲ-1-5)

図Ⅲ-1-5 仕事をやめた理由－24年度調査との比較



(2) 母の仕事をやめた理由一年齢階級別

母の「40～44 歳」以下の階級では、「育児に専念したかったため」の割合が最も高い

母の仕事をやめた理由を年齢階級別にみると、「40～44 歳」以下の各階級において、「育児に専念したかったため」の割合が最も高くなっている（29.2%～32.8%）。また、「45～49 歳」以上の各階級においては「結婚のため」の割合が最も高くなっている（29.5%、35.5%）。（表Ⅲ-1-4）

表Ⅲ-1-4 母の仕事をやめた理由一年齢階級別

	総 数	結 婚 の た め	育 児 に 専 念 し た か っ た た め	子 供 の 預 け 先 が な か っ た た め （ 遠 か っ た た め ）	仕 事 を 続 け る こ と に つ い て、 家 族 の 理 解 が 得 ら れ な か っ た か ら	家 族 の 介 護 や 看 護 の た め	家 族 の 転 勤 や 通 勤 上 の 理 由 の た め	健 康 上 の 理 由	仕 事 が 自 分 に 向 か な か っ た か ら	労 働 条 件 （ 労 働 時 間、 賃 金 等 ） が 合 わ な か っ た か ら	勤 務 先 で 仕 事 と 子 育 て を 両 立 す る 制 度 （ 育 児 休 業、 短 時 間 勤 務 等 ） が 整 っ て い な か っ た か ら	職 場 の 理 解 が 得 ら れ な か っ た か ら	仕 事 を 続 け る こ と の 意 義 を 感 じ な か っ た か ら	会 社 倒 産 や 人 事 整 理 な ど 会 社 の 都 合 か ら	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (1,179)	24.6	29.4	5.3	0.7	0.8	6.2	5.7	0.9	2.0	6.0	1.6	2.0	2.1	6.0	6.5
29歳以下	100.0 (67)	19.4	<u>32.8</u>	9.0	—	—	4.5	1.5	—	—	13.4	1.5	—	3.0	9.0	6.0
30～34歳	100.0 (237)	20.7	<u>29.5</u>	8.0	0.8	0.4	5.5	4.6	2.1	1.3	6.8	2.1	3.0	1.3	5.5	8.4
35～39歳	100.0 (343)	22.4	<u>29.2</u>	5.0	0.3	0.6	7.0	6.7	0.6	2.3	7.9	1.2	2.0	1.2	7.6	6.1
40～44歳	100.0 (355)	27.3	<u>31.8</u>	4.5	0.8	0.8	6.5	5.4	0.6	2.3	3.1	2.3	1.1	3.1	5.1	5.4
45～49歳	100.0 (146)	<u>29.5</u>	26.7	2.1	1.4	1.4	6.2	5.5	0.7	3.4	4.8	0.7	3.4	3.4	4.1	6.8
50歳以上	100.0 (31)	<u>35.5</u>	9.7	6.5	—	3.2	3.2	16.1	3.2	—	3.2	—	3.2	—	6.5	9.7

（注）父は総数が 26 名のため省略した。

5 今後の就労希望

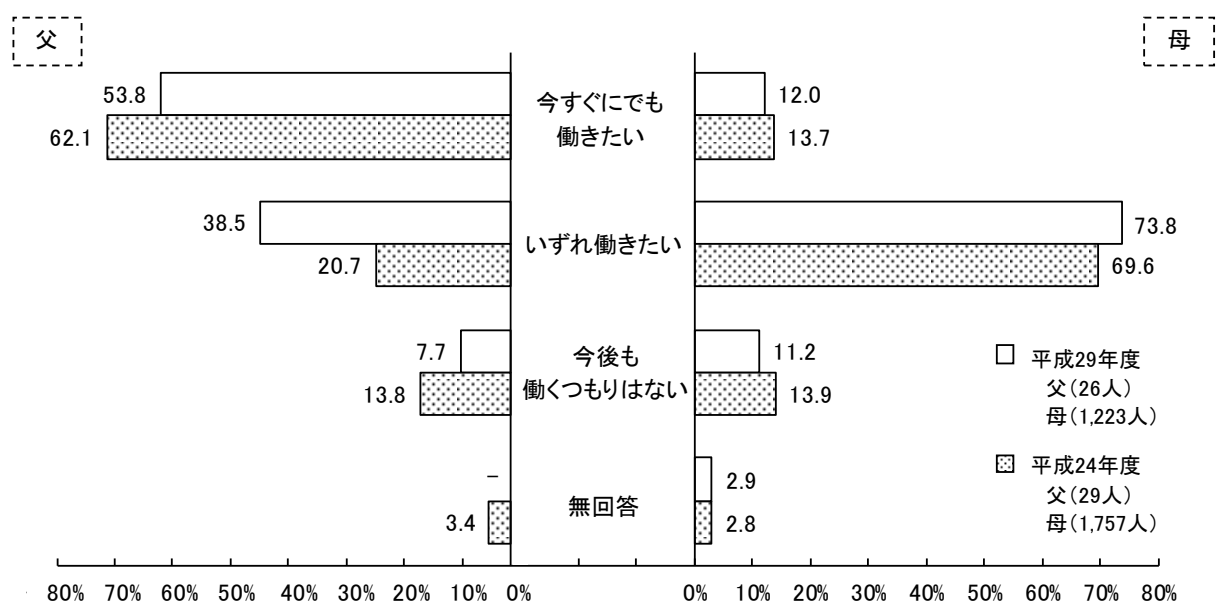
(1) 今後の就労希望－24年度調査との比較

「いずれ働きたい」母の割合は7割強

就労状況で、「以前は働いていた」又は「今まで働いたことはない」と回答した父母（1,249人）に、今後働きたいと思うか聞いたところ、父は「今すぐにでも働きたい」の割合が53.8%で最も高く、母は「いずれ働きたい」が73.8%で最も高くなっている。

母の「今後も働くつもりはない」の割合は11.2%で、24年度調査（13.9%）から2.7ポイント低くなっている。（図Ⅲ-1-6）

図Ⅲ-1-6 今後の就労希望－24年度調査との比較



(2) 母の今後の就労希望一年齢階級別

「40～44 歳」以下の階級では、「今すぐにでも働きたい」と「いずれ働きたい」を合わせた割合は、8 割超

母の今後の就労希望を年齢階級別にみると、「今すぐにでも働きたい」、「いずれ働きたい」を合わせた割合は、「40～44 歳」以下の各階級では、いずれも 8 割以上となっている（85.0～92.0%）（表Ⅲ-1-5）

表Ⅲ-1-5 母の今後の就労希望一年齢階級別

	総 数	今 す ぐ に で も 働 き た い	い ず れ 働 き た い	今 後 も 働 く つ も り は な い	無 回 答
母	100.0 (1,223)	12.0	73.8	11.2	2.9
29歳以下	100.0 (75)	14.7	77.3	5.3	2.7
		92.0			
30～34歳	100.0 (248)	12.9	76.6	8.1	2.4
		89.5			
35～39歳	100.0 (354)	10.5	78.0	8.8	2.8
		88.4			
40～44歳	100.0 (361)	10.8	74.2	11.1	3.9
		85.0			
45～49歳	100.0 (151)	14.6	61.6	21.2	2.6
50歳以上	100.0 (34)	17.6	52.9	29.4	-

（注）父は総数が 26 名のため省略した。

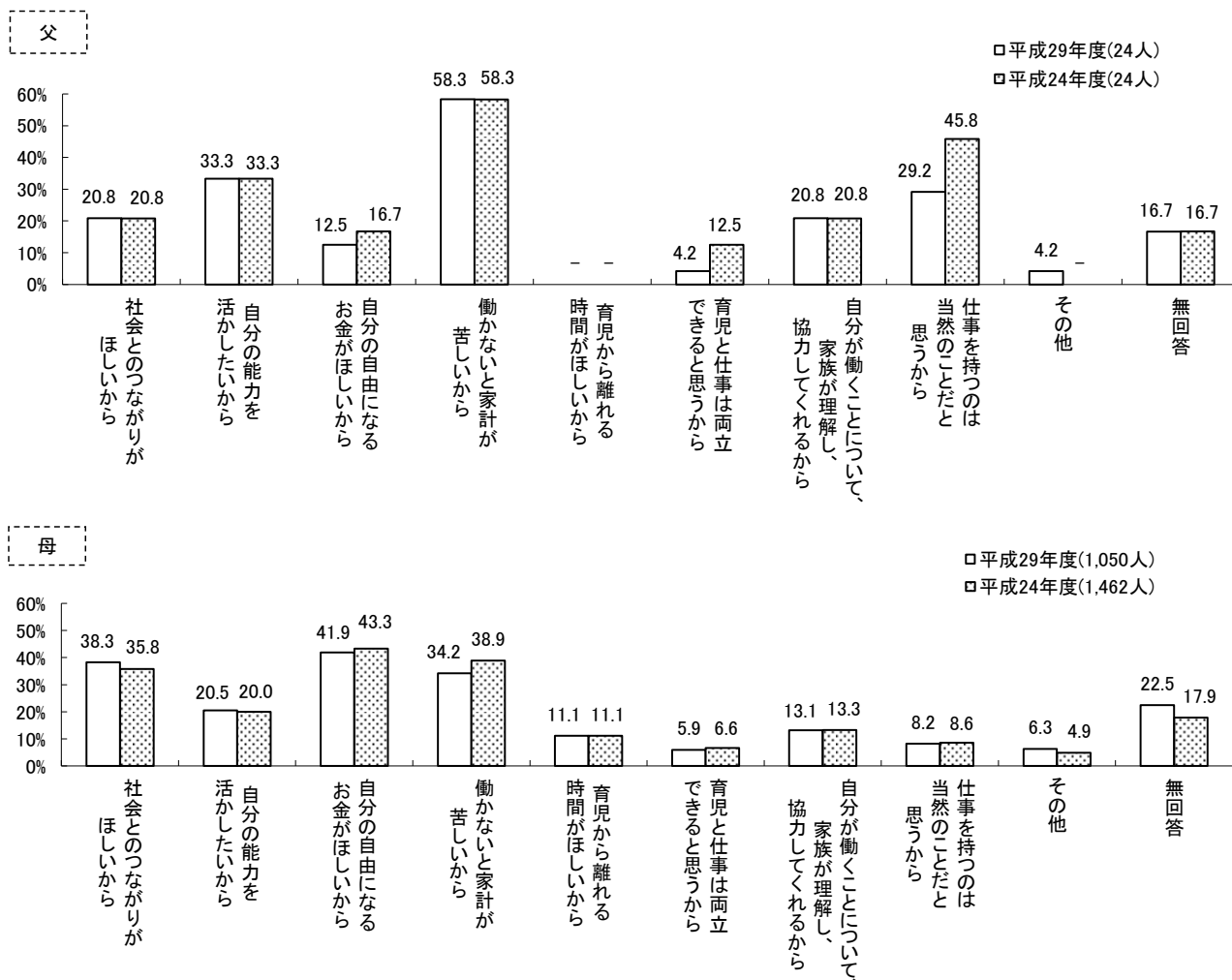
（注）統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(3) 今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－24年度調査との比較

父は「働かないと家計が苦しいから」の割合が5割超

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母(1,074人)に、今後働きたい理由を聞いたところ、父は「働かないと家計が苦しいから」の割合が58.3%で最も高くなっている。母は「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が41.9%で最も高く、次いで「社会とのつながりがほしいから」の割合が38.3%となっている。(図Ⅲ-1-7)

図Ⅲ-1-7 今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－24年度調査との比較



(4) 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕一年齢階級別

29歳以下の母は「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が約5割

母の今後働きたい理由を年齢階級別にみたところ、「35～39歳」と「50歳以上」以外の全ての階級で「自分の自由になるお金がほしいから」の割合が最も高くなっている（42.0%～50.7%）。(表Ⅲ-1-6)

表Ⅲ-1-6 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕一年齢階級別

	総数	社会とのつながりがほしいから	自分の能力を活かしたいから	自分の自由になるお金がほしいから	働かないと家計が苦しいから	育児から離れる時間がほしいから	育児と仕事は両立できると思うから	自分が働くことについて、家族が理解し、協力してくれるから	仕事を持つのは当然のことだと思うから	その他	無回答
母	100.0 (1,050)	38.3	20.5	41.9	34.2	11.1	5.9	13.1	8.2	6.3	22.5
29歳以下	100.0 (69)	31.9	15.9	<u>50.7</u>	47.8	14.5	5.8	23.2	10.1	4.3	20.3
30～34歳	100.0 (222)	45.9	20.3	<u>47.3</u>	36.5	20.3	8.6	13.1	7.7	5.0	16.7
35～39歳	100.0 (313)	34.2	18.8	35.5	36.7	9.3	3.2	12.8	7.7	6.4	23.0
40～44歳	100.0 (307)	37.1	21.5	<u>42.0</u>	27.7	8.8	6.2	12.4	5.9	7.2	24.8
45～49歳	100.0 (115)	40.9	26.1	<u>43.5</u>	29.6	3.5	7.0	11.3	13.9	5.2	28.7
50歳以上	100.0 (24)	41.7	16.7	41.7	45.8	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7

(注) 父は総数が24名のため省略した。

(5) 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－世帯の年間収入別

世帯収入が「200万円未満」の母は「働かないと家計が苦しいから」の割合が6割

母の今後働きたいと思う理由を世帯の年間収入別にみると、世帯の年間収入が「500～600万円未満」以下の全ての階級で、「働かないと家計が苦しいから」の割合が最も高くなっている（41.7%～60.0%）。（表Ⅲ-1-7）

表Ⅲ-1-7 母の今後働きたいと思う理由〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総 数	社 会 と の つ な が り が ほ し い か ら	自 分 の 能 力 を 活 か し た い か ら	自 分 の 自 由 に な る お 金 が ほ し い か ら	働 か な い と 家 計 が 苦 し い か ら	育 児 か ら 離 れ る 時 間 が ほ し い か ら	育 児 と 仕 事 は 両 立 で き る と 思 う か ら	理 解 し 、 協 力 し て く れ る か ら	自 分 が 働 く こ と に つ い て 、 家 族 が	仕 事 を 持 つ の は 当 然 の こ と だ と 思 う か ら	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (1,050)	38.3	20.5	41.9	34.2	11.1	5.9	13.1	8.2	6.3	22.5	
200万円未満	100.0 (35)	17.1	14.3	25.7	<u>60.0</u>	5.7	2.9	11.4	14.3	11.4	17.1	
200～300万円未満	100.0 (52)	26.9	17.3	42.3	<u>59.6</u>	15.4	13.5	15.4	13.5	5.8	13.5	
300～400万円未満	100.0 (93)	29.0	14.0	46.2	<u>58.1</u>	10.8	3.2	12.9	10.8	3.2	19.4	
400～500万円未満	100.0 (120)	34.2	15.0	37.5	<u>41.7</u>	13.3	8.3	16.7	5.0	5.0	22.5	
500～600万円未満	100.0 (169)	34.9	18.3	39.1	<u>42.0</u>	9.5	4.7	11.8	4.7	7.1	24.3	
600～800万円未満	100.0 (228)	41.2	20.6	47.8	32.9	11.8	3.5	14.9	9.2	7.0	19.3	
800～1,000万円未満	100.0 (150)	47.3	26.0	40.0	14.0	13.3	5.3	10.7	8.7	5.3	26.7	
1,000～1,200万円未満	100.0 (88)	40.9	29.5	42.0	14.8	9.1	9.1	13.6	9.1	9.1	25.0	
1,200～1,500万円未満	100.0 (39)	48.7	35.9	51.3	10.3	10.3	5.1	10.3	12.8	5.1	28.2	
1,500万円以上	100.0 (35)	54.3	20.0	37.1	－	2.9	11.4	8.6	5.7	8.6	31.4	

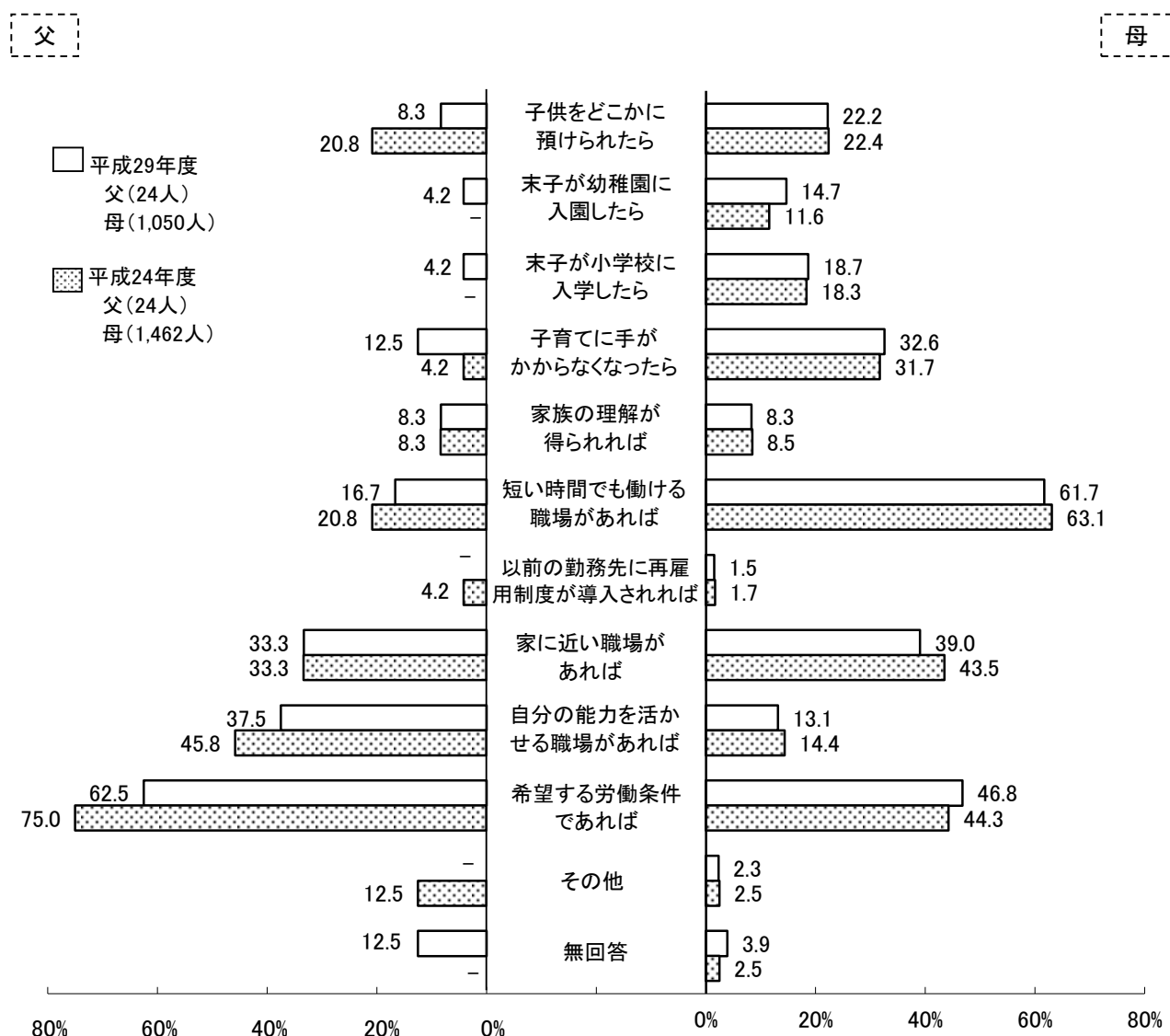
（注）父は総数が24名のため省略した。

(6) 今後働くための条件〔複数回答〕－24年度調査との比較

母は「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高く6割強

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母（1,074人）に、どのような条件が満たされれば働くことができると思うか聞いたところ、父は、「希望する労働条件であれば」が62.5%で最も高く、母は「短い時間でも働ける職場があれば」が61.7%で最も高くなっている。（図Ⅲ-1-8）

図Ⅲ-1-8 今後働くための条件〔複数回答〕－24年度調査との比較



(7) 母の今後働くための条件〔複数回答〕一年齢階級別

「40～44 歳」以下の階級では、「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高い

母が今後働くための条件を年齢階級別にみると、「40～44 歳」以下の各階級では、「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高くなっている（52.2%～68.4%）。（表Ⅲ-1-8）

表Ⅲ-1-8 母の今後働くための条件〔複数回答〕一年齢階級別

	総 数	子 供 を ど こ か に 預 け ら れ た ら	末 子 が 幼 稚 園 に 入 園 し た ら	末 子 が 小 学 校 に 入 学 し た ら	子 育 て に 手 が か か ら な く な っ た ら	家 族 の 理 解 が 得 ら れ ば	短 い 時 間 で も 働 け る 職 場 が あ れ ば	以 前 の 勤 務 先 に 再 雇 用 制 度 が 導 入 さ れ ば	家 に 近 い 職 場 が あ れ ば	自 分 の 能 力 を 活 か せ る 職 場 が あ れ ば	希 望 す る 労 働 条 件 で あ れ ば	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (1,050)	22.2	14.7	18.7	32.6	8.3	61.7	1.5	39.0	13.1	46.8	2.3	3.9
29歳以下	100.0 (69)	52.2	24.6	13.0	15.9	7.2	<u>52.2</u>	1.4	34.8	2.9	37.7	1.4	5.8
30～34歳	100.0 (222)	32.4	23.4	24.3	24.3	6.8	<u>61.3</u>	1.4	27.9	9.9	45.5	2.7	5.9
35～39歳	100.0 (313)	23.0	20.4	21.4	29.7	4.8	<u>60.7</u>	0.6	40.6	11.2	47.9	1.3	3.5
40～44歳	100.0 (307)	14.7	6.5	18.9	40.4	11.7	<u>68.4</u>	2.3	42.0	14.3	44.0	2.3	2.9
45～49歳	100.0 (115)	6.1	0.9	5.2	42.6	12.2	56.5	2.6	52.2	27.0	60.9	1.7	1.7
50歳以上	100.0 (24)	4.2	—	8.3	45.8	8.3	45.8	—	33.3	16.7	37.5	16.7	8.3

（注）父は総数が 24 名のため省略した。

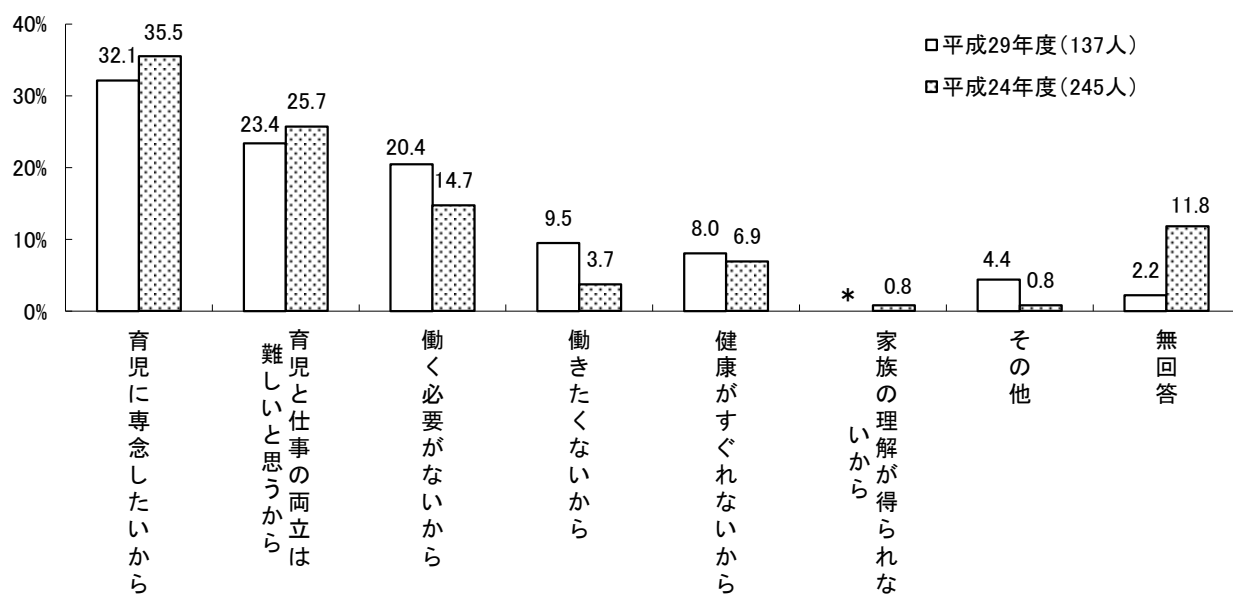
(8) 母の働く意向がない理由－24 年度調査との比較

「育児に専念したいから」の割合が最も高く、3 割強

今後の就労希望で、「今後も働くつもりはない」と回答した母（137 人）に、その理由を聞いたところ、「育児に専念したいから」の割合が 32.1%で最も高く、次いで「育児と仕事の両立は難しいと思うから」が 23.4%、「働く必要がないから」が 20.4%となっている。

「育児に専念したいから」は 24 年度調査に比べ、3.4 ポイント低くなっている。（図Ⅲ-1-9）

図Ⅲ-1-9 母の働く意向がない理由－24 年度調査との比較



(注) *は 29 年度調査では、選択肢を設けていないため、データが存在しない。

(注) 父は総数が 2 名のため省略した。

(9) 母の働く意向がない理由－年齢階級別

「30～34 歳」から「45～49 歳」までの各階級では「育児に専念したいから」の割合が 3 割強

母の今後も働く意向がない理由を年齢階級別にみると、「30～34 歳」、「40～44 歳」、「45～49 歳」では「育児に専念したいから」の割合が最も高く（40.0％、35.0％、34.4％）、「35～39 歳」では「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が 38.7％で最も高くなっている。また、「30～34 歳」から「45～49 歳」までの各階級では、「育児に専念したいから」の割合が、いずれも 3 割を超えている（32.3％～40.0％）。（表Ⅲ-1-9）

表Ⅲ-1-9 母の働く意向がない理由－年齢階級別

	総 数	育 児 に 専 念 し た い か ら	働 く 必 要 が な い か ら	難 し い と 思 う の か ら	育 児 と 仕 事 の 両 立 は	健 康 が す ぐ れ な い か ら	働 き た く な い か ら	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (137)	32.1	20.4	23.4	8.0	9.5	4.4	2.2	
29歳以下	100.0 (4)	25.0	25.0	—	—	50.0	—	—	—
30～34歳	100.0 (20)	<u>40.0</u>	30.0	20.0	—	10.0	—	—	—
35～39歳	100.0 (31)	<u>32.3</u>	12.9	<u>38.7</u>	6.5	6.5	3.2	—	—
40～44歳	100.0 (40)	<u>35.0</u>	15.0	22.5	5.0	15.0	5.0	2.5	—
45～49歳	100.0 (32)	<u>34.4</u>	21.9	21.9	9.4	3.1	3.1	6.3	—
50歳以上	100.0 (10)	—	40.0	—	40.0	—	20.0	—	—

(注) 父は総数が 2 名のため省略した。

(10) 母の働く意向がない理由―世帯の年間収入別

母の今後も働く意向がない理由を世帯の年間収入別にみると、「300～400 万円未満」から「500～600 万円未満」の各階級と、「800～1,000 万円未満」、「1,000～1,200 万円未満」において、「育児に専念したいから」の割合が最も高くなっている（30.0%～62.5%）。

「600～800 万円未満」では「育児と仕事の両立は難しいと思うから」の割合が 29.6%で最も高くなっている。（表Ⅲ-1-10）

表Ⅲ-1-10 母の働く意向がない理由―世帯の年間収入別

	総 数	育 児 に 専 念 し た い か ら	働 く 必 要 が な い か ら	難 し い と し っ こ り に し て や り た い か ら	健 康 が す ぐ れ な い か ら	働 き た く な い か ら	そ の 他	無 回 答
母	100.0 (137)	32.1	20.4	23.4	8.0	9.5	4.4	2.2
200万円未満	100.0 (5)	20.0	—	—	60.0	—	20.0	—
200～300万円未満	100.0 (2)	—	—	50.0	50.0	—	—	—
300～400万円未満	100.0 (10)	<u>30.0</u>	—	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0
400～500万円未満	100.0 (8)	<u>62.5</u>	12.5	—	—	25.0	—	—
500～600万円未満	100.0 (15)	<u>40.0</u>	13.3	26.7	—	13.3	—	6.7
600～800万円未満	100.0 (27)	22.2	25.9	<u>29.6</u>	11.1	7.4	3.7	—
800～1,000万円未満	100.0 (21)	<u>38.1</u>	14.3	28.6	9.5	9.5	—	—
1,000～1,200万円未満	100.0 (18)	<u>33.3</u>	27.8	27.8	5.6	—	5.6	—
1,200～1,500万円未満	100.0 (7)	14.3	57.1	14.3	—	14.3	—	—
1,500万円以上	100.0 (19)	31.6	31.6	26.3	—	—	5.3	5.3

（注）父は総数が2名のため省略した。

第2章 育児休業制度

1 育児休業制度の利用の有無

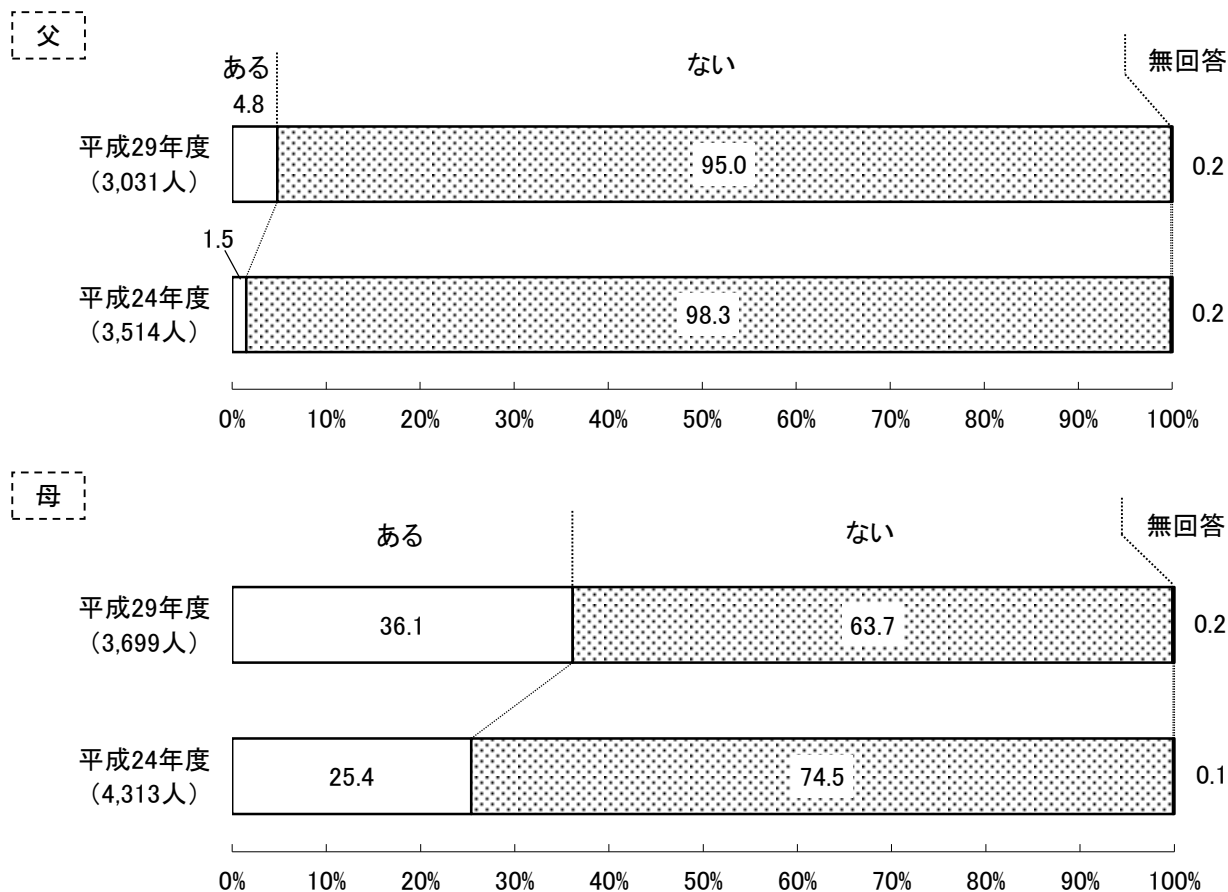
(1) 育児休業制度の利用の有無－24年度調査との比較

育児休業制度の利用割合は父母ともに増加し、母は3割超

対象者全員に育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合は、父が4.8%、母は36.1%となっている。

24年度調査と比べ、「ある」の割合は、父は3.3ポイント、母は10.7ポイント高くなっている。(図Ⅲ-2-1)

図Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無－24年度調査との比較



(2) 育児休業制度の利用の有無一性・年齢階級別

母の「ある」の割合は、30歳台で4割強

育児休業制度利用の有無を性・年齢階級別にみると、母は、「30～34歳」、「35～39歳」で「ある」と回答した割合が、4割を超えている（43.0%、42.3%）。（表Ⅲ-2-1）

表Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無一性・年齢階級別

	総 数	あ る	な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	22.0	77.8	0.2
父	100.0 (3,031)	4.8	95.0	0.2
29歳以下	100.0 (94)	5.3	94.7	－
30～34歳	100.0 (454)	4.8	94.9	0.2
35～39歳	100.0 (778)	5.7	94.3	－
40～44歳	100.0 (900)	5.3	94.7	－
45～49歳	100.0 (574)	4.0	95.8	0.2
50歳以上	100.0 (231)	1.7	97.0	1.3
母	100.0 (3,699)	36.1	63.7	0.2
29歳以下	100.0 (198)	39.4	60.6	－
30～34歳	100.0 (649)	<u>43.0</u>	56.9	0.2
35～39歳	100.0 (1,041)	<u>42.3</u>	57.6	0.1
40～44歳	100.0 (1,101)	32.2	67.6	0.3
45～49歳	100.0 (571)	26.8	72.9	0.4
50歳以上	100.0 (139)	23.7	76.3	－

2 育児休業の取得期間の現実と理想

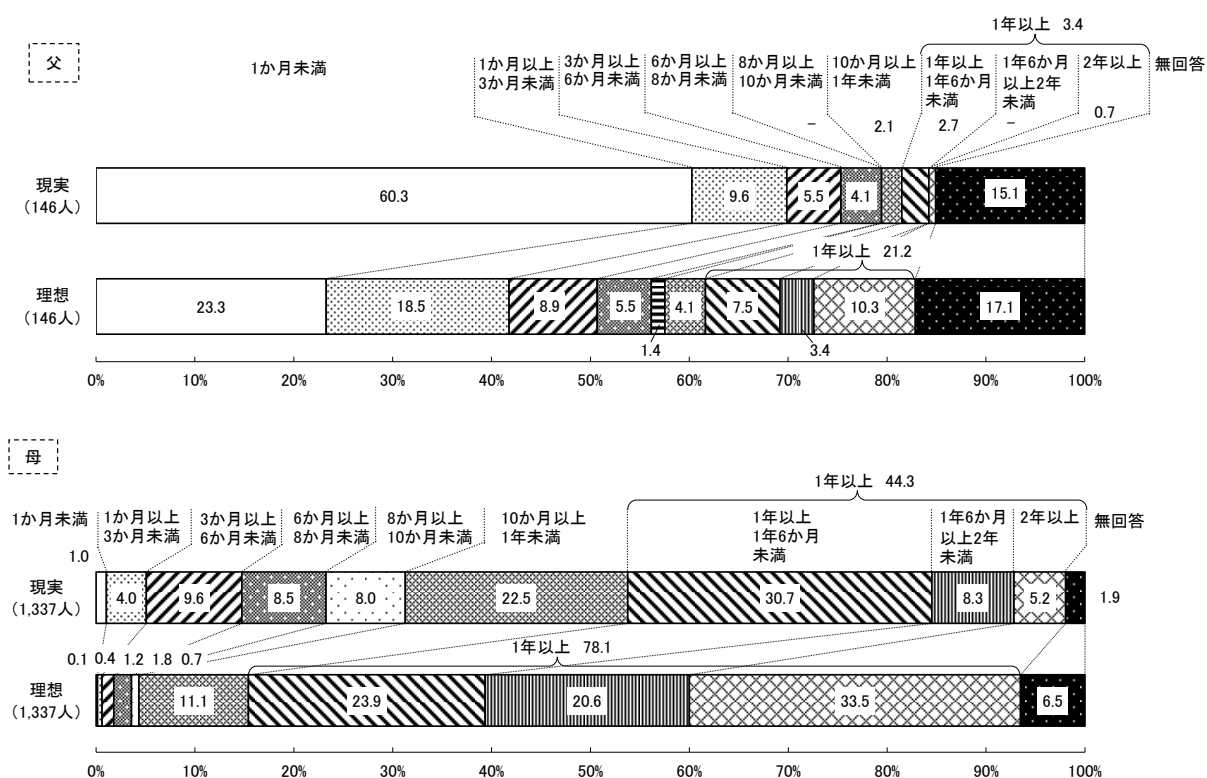
(1) 育児休業の取得期間の現実と理想

父は「1年以上」を理想とする割合が2割強だが、現実には1割以下、母は「1年以上」を理想とする割合が7割超だが、現実には4割強

育児休業制度を利用したことがある父母（1,483人）に、育児休業を取得した実際の期間と理想の期間を聞いたところ、父は、「1年以上1年6か月未満」、「1年6か月以上2年未満」、「2年以上」を合わせた、「1年以上」を理想としている割合は21.2%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は3.4%となっている。

一方、母は「1年以上」を理想としている割合は78.1%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は、44.3%となっている。（図Ⅲ-2-2）

図Ⅲ-2-2 育児休業の取得期間の現実と理想



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 母の育児休業の現実の取得期間一年齢階級別

「40～44 歳」以下の各階級では、「1 年以上 1 年 6 か月未満」の割合が最も高い

母の育児休業の現実の取得期間を年齢階級別にみると、「40～44 歳」以下の各階級では、「1 年以上 1 年 6 か月未満」の割合が最も高く（30.7%～39.7%）、「45～49 歳」以上の各階級では、「10 か月以上 1 年未満」の割合が最も高くなっている（21.6%、33.3%）。（表Ⅲ-2-2）

表Ⅲ-2-2 母の育児休業の現実の取得期間一年齢階級別

	総 数	1 か 月 未 満	1 か 月 以 上 3 か 月 未 満	3 か 月 以 上 6 か 月 未 満	6 か 月 以 上 8 か 月 未 満	8 か 月 以 上 1 0 か 月 未 満	1 0 か 月 以 上 1 年 未 満	1 年 以 上 1 年 6 か 月 未 満	1 年 6 か 月 以 上 2 年 未 満	2 年 以 上	無 回 答
母	100.0 (1,337)	1.0	4.0	9.6	8.5	8.0	22.5	30.7	8.3	5.2	1.9
29歳以下	100.0 (78)	3.8	2.6	7.7	9.0	9.0	17.9	<u>39.7</u>	3.8	6.4	—
30～34歳	100.0 (279)	0.7	5.0	10.8	6.8	10.4	20.1	<u>31.9</u>	9.0	4.3	1.1
35～39歳	100.0 (440)	1.4	2.5	7.5	8.4	7.7	24.5	<u>30.7</u>	9.1	5.7	2.5
40～44歳	100.0 (354)	0.3	2.3	9.6	10.2	6.5	22.3	<u>33.3</u>	9.0	4.2	2.3
45～49歳	100.0 (153)	0.7	10.5	11.8	8.5	9.2	<u>21.6</u>	20.9	7.2	7.8	2.0
50歳以上	100.0 (33)	3.0	9.1	24.2	6.1	—	<u>33.3</u>	18.2	—	3.0	3.0

（注）父は総数が 146 人のため省略する。

(3) 母の育児休業の理想の取得期間一年齢階級別

全ての階級で「2年以上」の割合が最も高い

母の育児休業の理想の取得期間を年齢階級別にみると、全ての階級で「2年以上」の割合が最も高くなっている（28.8%～43.6%）。（表Ⅲ-2-3）

表Ⅲ-2-3 母の育児休業の理想の取得期間一年齢階級別

	総 数	1 か 月 未 満	1 か 月 以 上 3 か 月 未 満	3 か 月 以 上 6 か 月 未 満	6 か 月 以 上 8 か 月 未 満	8 か 月 以 上 1 0 か 月 未 満	1 0 か 月 以 上 1 年 未 満	1 年 以 上 1 年 6 か 月 未 満	1 年 6 か 月 以 上 2 年 未 満	2 年 以 上	無 回 答
母	100.0 (1,337)	0.1	0.4	1.2	1.8	0.7	11.1	23.9	20.6	33.5	6.5
29歳以下	100.0 (78)	－	－	－	1.3	－	11.5	16.7	19.2	<u>43.6</u>	7.7
30～34歳	100.0 (279)	0.4	1.1	1.1	2.2	0.7	6.5	23.3	25.1	<u>35.1</u>	4.7
35～39歳	100.0 (440)	－	－	0.9	1.4	1.1	13.0	23.9	18.2	<u>34.3</u>	7.3
40～44歳	100.0 (354)	－	0.6	1.7	2.3	0.3	10.2	27.1	22.6	<u>28.8</u>	6.5
45～49歳	100.0 (153)	0.7	0.7	2.0	2.0	0.7	15.0	22.2	19.0	<u>32.0</u>	5.9
50歳以上	100.0 (33)	－	－	－	－	3.0	15.2	21.2	6.1	<u>42.4</u>	12.1

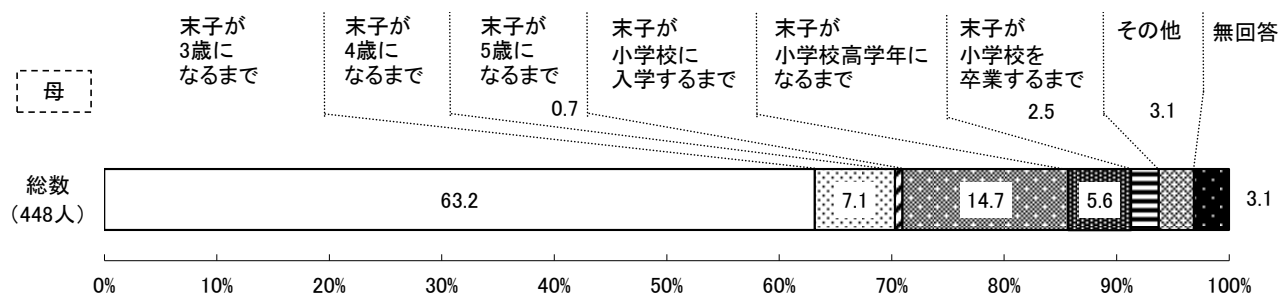
（注）父は総数が146人のため省略する。

(4) 母の育児休業の理想の取得期間（2年以上の場合）

2年以上の育児休業を理想とする母の、具体的な取得希望期間は「末子が3歳になるまで」の割合が6割強

育児休業の理想の取得期間が2年以上である母（448人）に、具体的に、いつまで育児休業を取りたいと思うか聞いたところ、「末子が3歳になるまで」の割合が63.2%で最も高く、次いで「末子が小学校に入学するまで」の割合が14.7%となっている。（図Ⅲ-2-3）

図Ⅲ-2-3 母の育児休業の理想の取得期間（2年以上の場合）



（注）父は総数が15人のため省略する。

(5) 育児休業の取得期間の現実と理想のギャップの有無とその理由〔複数回答〕

ー24年度調査との比較

「ギャップがある」割合は、父が5割強、母は約7割

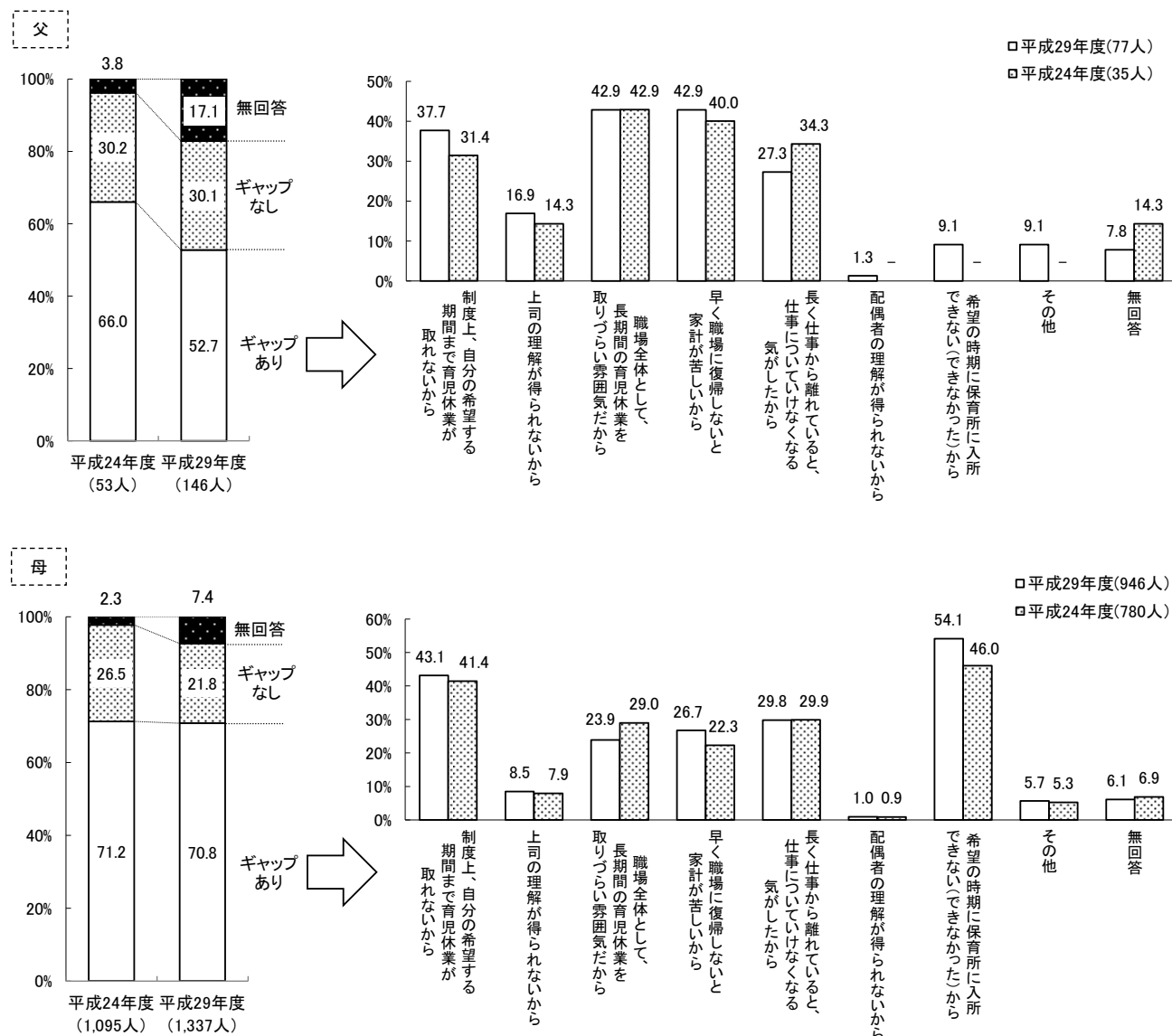
育児休業制度を利用したことがある父母（1,483人）の、実際の取得期間と理想の取得期間にギャップがあるかをみると、「ギャップあり」の割合は、父が52.7%、母は70.8%となっている。

育児休業の実際の取得期間と理想の取得期間にギャップがあった父母（1,023人）について、その理由をみると、父は、「職場全体として、長期間の育児休業を取りづらい雰囲気だから」と「早く職場に復帰しないと家計が苦しいから」の割合が42.9%で最も高くなっている。

一方、母は、「希望の時期に保育所に入所できない（できなかった）から」の割合が54.1%で最も高く、24年度調査に比べて、8.1ポイント高くなっている。（図Ⅲ-2-4）

図Ⅲ-2-4 育児休業の取得期間の現実と理想のギャップの有無とその理由〔複数回答〕

ー24年度調査との比較



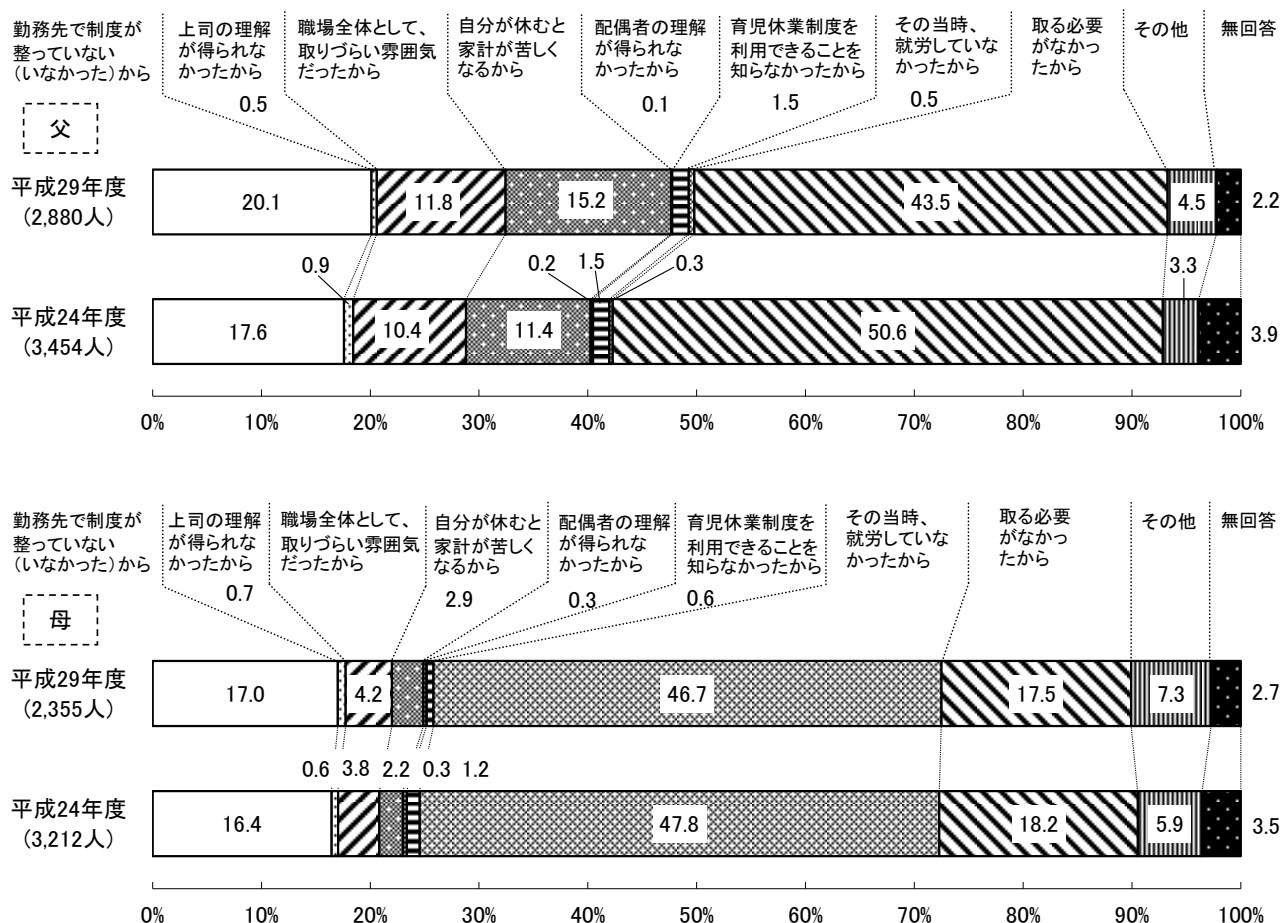
(6) 育児休業を利用しなかった理由－24年度調査との比較

父は「取る必要がなかったから」の割合が、母は「その当時、就労していなかったから」の割合がそれぞれ4割強

育児休業を利用しなかった父母（5,235人）に、その理由を聞いたところ、父は「取る必要がなかったから」の割合が43.5%で最も高くなっている。

一方、母は、「その当時、就労していなかったから」の割合が46.7%で最も高く、次いで「取る必要がなかったから」が17.5%、「勤務先で制度が整っていない（いなかった）から」が17.0%となっている。（図Ⅲ-2-5）

図Ⅲ-2-5 育児休業を利用しなかった理由－24年度調査との比較



(7) 育児休業を利用しなかった理由－1番下の子供の年齢別

父は「取る必要がなかったから」、母は「その当時、就労していなかったから」の割合が、1番下の子供の全ての年齢階級において、それぞれ最も高い

育児休業を利用しなかった理由を、1番下の子供の年齢別にみると、父は、1番下の子供の全ての年齢階級で「取る必要がなかったから」の割合が最も高くなっている(33.2%～49.0%)。

一方、母は、1番下の子供の全ての年齢階級で「その当時、就労していなかったから」の割合が最も高くなっている(32.6%～51.1%)。(表Ⅲ-2-4)

表Ⅲ-2-4 育児休業を利用しなかった理由－1番下の子供の年齢別

	総数	(勤務先で制度が整っていない)	上司の理解が得られなかったから	職場全体として、取りづらい雰囲気	自分が休むと家計が苦しくなるから	配偶者の理解が得られなかったから	育児休業制度を利用できることを知らなかったから	その当時、就労していなかったから	取る必要がなかったから	その他	無回答
総数	100.0 (5,235)	18.7	0.6	8.4	9.7	0.2	1.1	21.3	31.8	5.8	2.4
父	100.0 (2,880)	20.1	0.5	11.8	15.2	0.1	1.5	0.5	43.5	4.5	2.2
1歳未満	100.0 (349)	19.2	0.6	20.1	17.5	－	1.7	0.9	<u>33.2</u>	4.9	2.0
1～3歳未満	100.0 (728)	20.2	0.4	10.9	18.7	－	1.2	0.4	<u>40.1</u>	5.1	3.0
3～6歳未満	100.0 (679)	19.0	0.7	13.8	15.9	0.1	1.5	0.3	<u>43.2</u>	3.7	1.8
6～9歳未満	100.0 (522)	19.3	0.4	9.4	14.0	0.2	1.7	0.4	<u>49.0</u>	4.2	1.3
9～12歳未満	100.0 (491)	24.0	0.2	8.8	9.8	0.2	1.0	0.6	<u>48.9</u>	4.7	1.8
12歳以上	100.0 (107)	15.9	0.9	5.6	10.3	－	4.7	1.9	<u>48.6</u>	5.6	6.5
母	100.0 (2,355)	17.0	0.7	4.2	2.9	0.3	0.6	46.7	17.5	7.3	2.7
1歳未満	100.0 (196)	19.9	1.0	1.5	3.1	－	2.6	<u>40.8</u>	18.4	10.2	2.6
1～3歳未満	100.0 (449)	18.5	0.7	5.1	1.1	－	0.4	<u>47.4</u>	16.7	8.2	1.8
3～6歳未満	100.0 (493)	17.6	1.2	3.9	0.4	0.2	－	<u>50.7</u>	15.0	9.1	1.8
6～9歳未満	100.0 (458)	15.1	0.7	5.7	2.6	0.4	0.7	<u>51.1</u>	15.1	7.4	1.3
9～12歳未満	100.0 (465)	13.8	0.2	4.7	2.6	0.9	0.6	<u>48.4</u>	19.4	6.0	3.4
12歳以上	100.0 (291)	20.3	0.7	2.1	10.7	－	0.7	<u>32.6</u>	23.0	3.1	6.9

第3章 子育てに関して感じること

1 出産をしやすいするために必要なもの

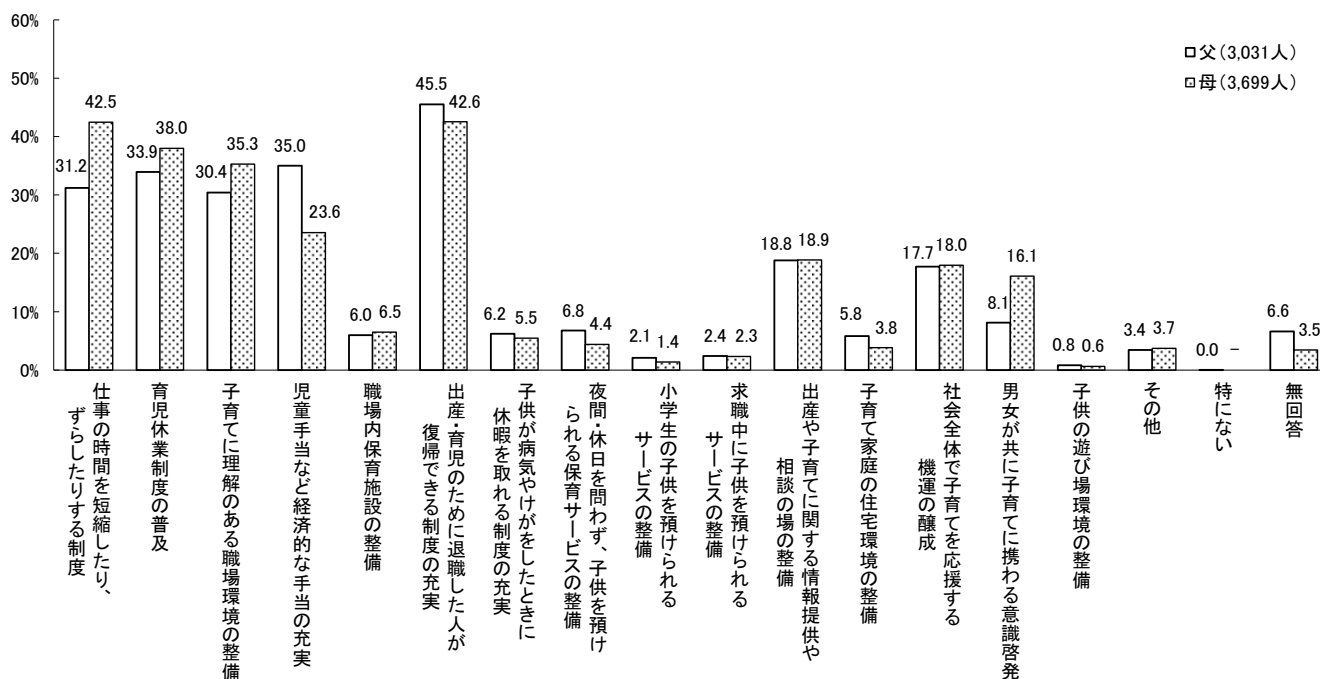
(1) 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

父母ともに「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高く、4割強

対象者全員に出産をしやすいするためには何が必要だと思うか聞いたところ、父母ともに「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（45.5%、42.6%）。次いで、父は「児童手当など経済的な手当の充実」が高く（35.0%）、母（23.6%）に比べ、11.4ポイント高くなっている。

母は「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」が高く（42.5%）、父（31.2%）に比べ、11.3ポイント高くなっている。（図Ⅲ-3-1）

図Ⅲ-3-1 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕



(2) 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

母は、「35～39 歳」以下の各階級では、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高い

出産をしやすいするために必要なものを性・年齢階級別にみると、父は「30～34 歳」以外の全ての階級で「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（38.3%～52.4%）。

母は「35～39 歳」以下の各階級では「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高く（44.9%、45.8%、42.9%）、「40～44 歳」以上の各階級では「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（42.8%、45.5%、45.3%）。

（表Ⅲ-3-1）

表Ⅲ-3-1 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

		総 数	仕 事 の 時 間 を 短 縮 し た り 、 ず ら し た り す る 制 度	育 児 休 業 制 度 の 普 及	子 育 て に 理 解 の あ る 職 場 環 境 の 整 備	児 童 手 当 な ど 経 済 的 な 手 当 の 充 実	職 場 内 保 育 施 設 の 整 備	出 産 ・ 育 児 の た め に 退 職 し た 人 が 復 帰 で き る 制 度 の 充 実	子 供 が 病 気 や け が を し た と き に 休 暇 を 取 れ る 制 度 の 充 実	夜 間 ・ 休 日 を 問 わ ず 、 子 供 を 預 け ら れ る 保 育 サ ー ビ ス の 整 備	小 学 生 の 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	求 職 中 に 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	出 産 や 子 育 て に 関 す る 情 報 提 供 や 相 談 の 場 の 整 備	子 育 て 家 庭 の 住 宅 環 境 の 整 備	社 会 全 体 で 子 育 て を 応 援 す る 機 運 の 醸 成	男 女 が 共 に 子 育 て に 携 わ る 意 識 啓 発	子 供 の 遊 び 場 環 境 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (6,730)	37.4	36.2	33.1	28.7	6.3	43.9	5.8	5.5	1.7	2.4	18.8	4.7	17.8	12.5	0.7	3.6	0.0	4.9
父		100.0 (3,031)	31.2	33.9	30.4	35.0	6.0	45.5	6.2	6.8	2.1	2.4	18.8	5.8	17.7	8.1	0.8	3.4	0.0	6.6
	29歳以下	100.0 (94)	33.0	31.9	26.6	36.2	5.3	38.3	10.6	6.4	-	2.1	22.3	2.1	17.0	9.6	1.1	3.2	-	6.4
	30～34歳	100.0 (454)	34.8	31.5	30.2	41.4	4.4	41.2	8.4	7.0	0.7	2.4	18.7	6.4	20.5	8.8	0.9	4.0	-	4.6
	35～39歳	100.0 (778)	32.1	29.3	33.5	39.7	6.4	43.3	5.8	7.7	3.1	2.4	17.0	6.8	17.5	7.5	0.8	3.7	-	7.2
	40～44歳	100.0 (900)	30.0	36.0	29.3	32.3	5.4	48.6	5.8	7.1	2.6	2.8	17.4	5.3	18.3	8.3	1.0	3.3	-	6.3
	45～49歳	100.0 (574)	29.3	36.6	30.1	30.8	7.5	45.6	5.1	5.4	1.9	2.4	21.3	6.1	16.6	8.9	0.7	2.6	0.2	6.6
	50歳以上	100.0 (231)	29.9	40.3	26.8	26.8	6.1	52.4	6.5	5.2	0.9	0.9	22.5	3.9	13.9	5.6	0.4	3.9	-	9.5
母		100.0 (3,699)	42.5	38.0	35.3	23.6	6.5	42.6	5.5	4.4	1.4	2.3	18.9	3.8	18.0	16.1	0.6	3.7	-	3.5
	29歳以下	100.0 (198)	44.9	35.9	33.3	31.3	3.5	43.4	3.0	4.5	1.5	2.0	17.2	9.1	18.2	15.7	0.5	3.5	-	2.5
	30～34歳	100.0 (649)	45.8	34.5	36.5	24.8	5.7	39.0	3.7	4.9	1.4	1.7	18.5	4.6	20.2	17.6	0.6	4.9	-	2.6
	35～39歳	100.0 (1,041)	42.9	35.8	38.5	24.3	6.8	42.4	5.2	4.4	1.3	2.3	18.8	3.8	18.4	16.4	0.8	5.2	-	2.4
	40～44歳	100.0 (1,101)	42.7	39.0	34.4	21.3	6.9	42.8	5.9	3.9	1.5	2.4	19.3	3.1	17.2	17.2	0.7	2.9	-	3.7
	45～49歳	100.0 (571)	39.1	43.6	30.8	23.6	6.8	45.5	7.4	4.7	1.4	2.6	19.6	3.0	16.6	13.0	0.4	1.1	-	4.9
	50歳以上	100.0 (139)	32.4	43.2	33.1	18.7	7.2	45.3	7.9	4.3	-	4.3	18.0	2.2	15.1	11.5	0.7	5.0	-	8.6

(3) 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－地域別

全ての地域において「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高い

出産をしやすいするために必要なものを地域別にみると、全ての地域において、「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（41.0%～48.7%）。

また、区部では「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が37.2%で2番目に高く、市・町・村部では「育児休業制度の普及」の割合が38.1%で2番目に高くなっている。

（表Ⅲ-3-2）

表Ⅲ-3-2 出産をしやすいするために必要なもの〔複数回答〕－地域別

	総 数	仕 事 の 時 間 を 短 縮 し た り 、 ず ら し た り す る 制 度	育 児 休 業 制 度 の 普 及	子 育 て に 理 解 の あ る 職 場 環 境 の 整 備	児 童 手 当 な ど 経 済 的 な 手 当 の 充 実	職 場 内 保 育 施 設 の 整 備	出 産 ・ 育 児 の た め に 退 職 し た 人 が 復 帰 で き る 制 度 の 充 実	子 供 が 病 気 や け が を し た と き に 休 暇 を 取 れ る 制 度 の 充 実	預 け ら れ る 保 育 サ ー ビ ス の 整 備	小 学 生 の 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	求 職 中 に 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	出 産 や 子 育 て に 関 す る 情 報 提 供 や 相 談 の 場 の 整 備	子 育 て 家 庭 の 住 宅 環 境 の 整 備	社 会 全 体 で 子 育 て を 支 援 す る 機 運 の 醸 成	男 女 が 共 に 子 育 て に 携 わ る 意 識 啓 発	子 供 の 遊 び 場 環 境 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	37.4	36.2	33.1	28.7	6.3	43.9	5.8	5.5	1.7	2.4	18.8	4.7	17.8	12.5	0.7	3.6	0.0	4.9
区部	100.0 (4,697)	<u>37.2</u>	35.3	32.7	28.4	6.4	43.3	5.9	6.0	1.6	2.4	19.0	4.7	18.4	12.7	0.7	3.8	0.0	5.0
区中央部	100.0 (349)	38.1	26.1	37.0	23.5	6.0	<u>41.3</u>	5.7	8.6	2.0	2.6	17.2	3.4	20.6	14.3	0.3	3.2	0.3	6.6
区南部	100.0 (575)	38.1	36.0	33.0	28.2	7.7	<u>43.7</u>	5.0	4.7	1.6	2.1	19.0	4.7	17.0	10.3	1.0	5.0	-	5.0
区西南部	100.0 (629)	37.7	35.1	32.3	31.8	7.0	<u>41.0</u>	6.5	7.2	1.3	2.1	18.9	5.1	20.5	14.5	0.2	4.6	-	2.5
区西部	100.0 (785)	36.4	36.3	33.8	26.8	6.4	<u>42.5</u>	4.7	5.0	1.5	2.7	19.1	5.1	21.5	12.9	0.5	4.5	-	4.5
区西北部	100.0 (1,033)	39.3	33.4	34.3	26.3	6.0	<u>43.3</u>	6.4	6.5	1.9	2.3	18.5	3.9	18.2	12.7	0.9	3.8	-	5.0
区東北部	100.0 (645)	37.7	37.2	28.2	31.2	5.7	<u>47.8</u>	7.0	6.0	1.7	3.6	20.0	5.4	14.1	12.9	0.9	2.8	-	5.7
区東部	100.0 (681)	32.9	39.8	31.4	30.4	6.0	<u>42.9</u>	5.4	5.0	1.2	1.9	19.8	5.3	17.3	12.2	1.0	2.3	-	6.0
市・町・村部	100.0 (2,033)	37.8	<u>38.1</u>	33.9	29.5	6.0	45.3	5.7	4.3	1.9	2.2	18.4	4.7	16.5	12.0	0.7	3.2	-	4.7
西多摩	100.0 (250)	41.2	40.8	29.6	34.0	4.8	<u>42.8</u>	3.6	4.4	1.6	3.2	20.0	3.2	12.4	9.2	0.4	2.8	-	6.8
南多摩	100.0 (605)	38.5	35.9	38.5	32.2	7.6	<u>43.0</u>	5.5	4.1	1.3	2.6	16.7	4.8	17.0	11.9	0.5	5.0	-	4.5
北多摩西部	100.0 (260)	36.5	41.5	31.5	25.8	8.8	<u>44.2</u>	7.3	5.4	2.7	0.8	18.1	3.5	18.1	12.3	1.5	3.5	-	4.2
北多摩南部	100.0 (515)	38.4	36.9	29.7	28.7	2.5	<u>48.7</u>	5.6	3.3	1.6	2.5	19.6	6.0	19.2	12.2	0.8	2.3	-	4.5
北多摩北部	100.0 (403)	34.7	39.0	36.7	25.8	6.9	<u>46.4</u>	6.5	5.0	3.0	1.2	18.9	4.7	13.9	13.2	0.7	1.7	-	4.2

(4) 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―世帯の年間収入別

世帯収入が「1,200～1,500万円未満」以下の階級では、「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高く、4割強

出産をしやすくするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「1,500万円以上」を除く全ての階級において、「出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実」の割合が最も高くなっている（42.5%～48.5%）。「1,500万円以上」では、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高く、36.6%となっている。（表Ⅲ-3-3）

表Ⅲ-3-3 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―世帯の年間収入別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	夜間・休日問わず、子供を預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (6,730)	37.4	36.2	33.1	28.7	6.3	43.9	5.8	5.5	1.7	2.4	18.8	4.7	17.8	12.5	0.7	3.6	0.0	4.9
200万円未満	100.0 (236)	30.1	43.6	28.8	26.3	8.9	<u>46.2</u>	7.6	4.2	1.7	4.2	18.2	5.9	9.7	11.0	0.4	1.7	-	8.9
200～300万円未満	100.0 (274)	33.6	36.5	24.8	33.2	6.9	<u>48.5</u>	6.2	5.1	1.1	3.6	15.7	6.9	13.9	9.5	1.5	2.2	-	8.0
300～400万円未満	100.0 (486)	39.3	37.0	32.9	31.3	6.8	<u>45.7</u>	6.6	4.5	1.9	3.1	21.8	7.6	14.8	12.3	0.4	3.9	-	3.3
400～500万円未満	100.0 (639)	36.8	38.8	31.9	31.5	5.5	<u>43.5</u>	5.8	5.2	1.7	3.0	20.7	5.2	13.0	12.1	0.6	2.8	-	4.5
500～600万円未満	100.0 (922)	40.1	33.7	33.6	34.3	5.2	<u>43.2</u>	5.2	5.2	1.2	1.8	20.6	5.1	19.2	9.8	0.9	3.0	-	4.3
600～800万円未満	100.0 (1,451)	37.0	38.2	32.7	28.3	5.2	<u>45.4</u>	6.1	5.2	1.7	2.1	20.3	4.5	16.3	11.6	0.8	3.3	-	5.1
800～1,000万円未満	100.0 (1,020)	38.1	38.0	34.2	25.1	6.8	<u>42.5</u>	5.1	5.6	2.1	1.8	18.2	4.1	17.6	12.5	0.9	3.3	0.1	5.5
1,000～1,200万円未満	100.0 (750)	37.7	32.0	37.2	27.6	7.7	<u>43.7</u>	5.7	5.5	1.3	3.1	17.5	4.0	23.7	14.4	0.5	4.8	-	2.8
1,200～1,500万円未満	100.0 (419)	38.4	32.9	36.5	26.7	6.2	<u>43.0</u>	5.5	5.7	2.4	1.7	17.7	2.9	22.7	15.8	1.0	6.0	-	2.1
1,500万円以上	100.0 (339)	<u>36.6</u>	31.0	32.4	23.6	8.0	36.0	5.3	8.3	2.1	1.2	10.6	4.1	27.1	21.2	0.3	5.3	-	6.2

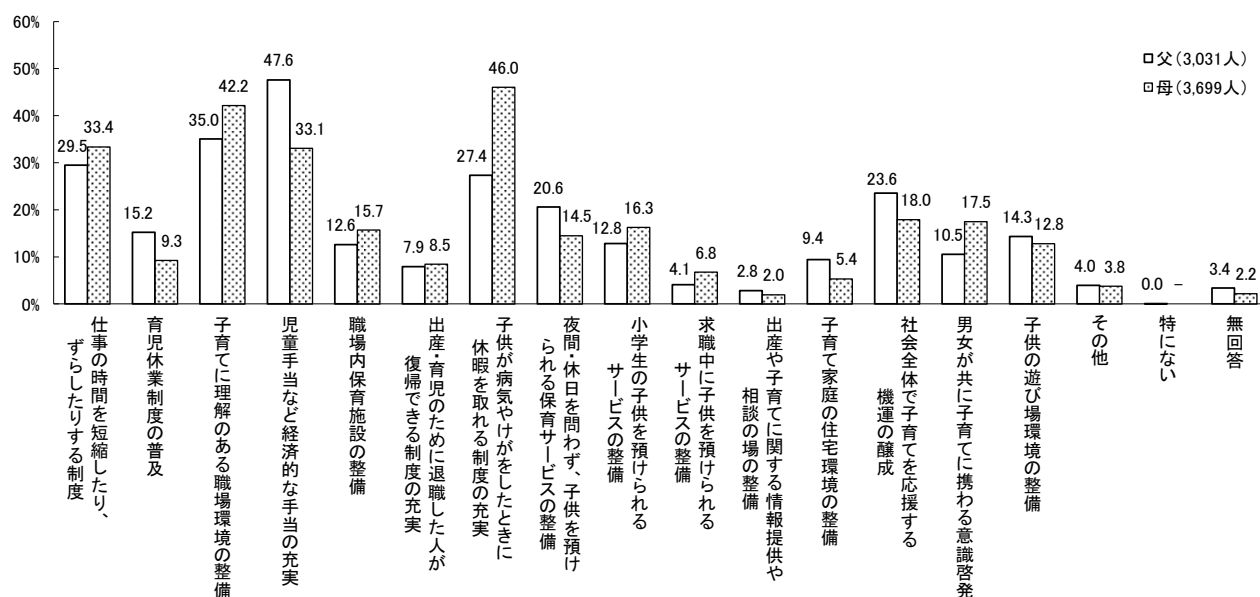
2 子育てをしやすいするために必要なもの

(1) 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕

父は「児童手当など経済的な手当の充実」、母は「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が、それぞれ最も高い

対象者全員に子育てをしやすいするためには何が必要か聞いたところ、父は「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が47.6%で最も高く、母（33.1%）と比べて14.5ポイント高くなっている。母は「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が46.0%で最も高く、父（27.4%）と比べて18.6ポイント高くなっている。（図Ⅲ-3-2）

図Ⅲ-3-2 子育てをしやすいするために必要なもの〔複数回答〕



(2) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

父は全ての階級において「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを性・年齢階級別にみると、父は全ての階級において「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（43.2%～55.3%）。

「児童手当など経済的な手当の充実」の割合は、父が 47.6%、母は 33.1%で、父の方が 14.5 ポイント高く、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」は、母が 46.0%、父は 27.4%で、母の方が 18.6 ポイント高くなっている。（表Ⅲ-3-4）

表Ⅲ-3-4 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	仕事の時間を短縮したり、	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	夜間・休日を問わず、子供の整備	小学生の子供を預けられる	求職中に子供を預けられる	相談の場の子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (6,730)	31.6	12.0	39.0	39.6	14.3	8.2	37.6	17.3	14.7	5.6	2.4	7.2	20.5	14.4	13.5	3.9	0.0	2.7
父	100.0 (3,031)	29.5	15.2	35.0	<u>47.6</u>	12.6	7.9	<u>27.4</u>	20.6	12.8	4.1	2.8	9.4	23.6	10.5	14.3	4.0	0.0	3.4
29歳以下	100.0 (94)	27.7	18.1	42.6	<u>55.3</u>	20.2	7.4	28.7	21.3	1.1	3.2	2.1	12.8	12.8	9.6	11.7	2.1	-	4.3
30～34歳	100.0 (454)	33.7	17.4	36.6	<u>52.2</u>	14.1	7.7	24.4	15.2	7.9	5.5	3.5	11.5	23.3	9.9	17.0	4.6	-	1.5
35～39歳	100.0 (778)	29.2	15.3	33.9	<u>46.3</u>	12.2	7.8	27.2	22.4	13.2	4.2	3.2	10.8	23.7	10.4	14.8	4.5	-	3.1
40～44歳	100.0 (900)	28.8	14.4	35.6	<u>48.2</u>	11.7	8.3	27.0	21.8	13.1	3.2	3.0	8.7	23.9	11.4	15.3	3.6	-	3.1
45～49歳	100.0 (574)	27.5	14.6	36.4	<u>43.2</u>	12.7	8.2	30.1	18.5	14.6	4.0	1.6	7.5	25.4	10.1	12.2	4.0	0.2	4.7
50歳以上	100.0 (231)	30.3	13.9	27.3	<u>48.5</u>	11.3	6.5	27.3	25.5	20.3	4.8	2.6	6.9	22.1	10.0	10.0	3.0	-	5.6
母	100.0 (3,699)	33.4	9.3	42.2	<u>33.1</u>	15.7	8.5	<u>46.0</u>	14.5	16.3	6.8	2.0	5.4	18.0	17.5	12.8	3.8	-	2.2
29歳以下	100.0 (198)	26.8	13.1	38.9	44.4	19.7	7.6	39.4	10.6	4.5	12.1	2.5	9.1	13.6	16.2	18.2	5.6	-	2.5
30～34歳	100.0 (649)	30.0	11.6	44.2	35.7	21.3	8.0	43.9	13.9	11.1	8.2	2.8	6.3	16.9	19.4	12.6	3.7	-	1.5
35～39歳	100.0 (1,041)	33.6	8.3	40.2	31.9	14.3	9.6	47.6	15.0	18.3	6.1	2.1	6.2	20.0	17.3	13.0	4.7	-	1.6
40～44歳	100.0 (1,101)	36.4	8.4	41.9	32.7	13.7	8.3	48.4	13.9	18.6	6.5	1.7	3.8	17.3	17.3	12.8	3.3	-	2.0
45～49歳	100.0 (571)	34.0	8.8	46.4	30.5	15.8	7.7	44.7	15.4	18.6	6.0	1.6	4.2	17.2	16.1	12.1	2.6	-	3.2
50歳以上	100.0 (139)	30.2	10.8	36.7	27.3	10.8	8.6	41.0	20.9	15.1	3.6	0.7	5.8	21.6	19.4	8.6	4.3	-	7.2

(3) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―地域別

「児童手当など経済的な手当の充実」の割合は区部よりも市・町・村部の方が高い

子育てをしやすくするために必要なものを地域別にみると、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合は、区部が 37.9%、市・町・村部が 43.5%で、市・町・村部の方が 5.6 ポイント高くなっている。特に西多摩では 48.8%、南多摩では 47.6%となっている。

一方、「夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備」の割合は、区部が 18.5%、市・町・村部が 14.5%で、区部の方が 4.0 ポイント高くなっている。特に区中央部では、24.6%となっている。(表Ⅲ-3-5)

表Ⅲ-3-5 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―地域別

	総 数	ず ら し た り す る 制 度	育 児 休 業 制 度 の 普 及	子 育 て に 理 解 の あ る 職 場 環 境 の 整 備	児 童 手 当 な ど 経 済 的 な 手 当 の 充 実	職 場 内 保 育 施 設 の 整 備	出 産 ・ 育 児 の た め に 退 職 し た 人 が 復 帰 で き る 制 度 の 充 実	休 眠 が 取 れ る 制 度 の 充 実	夜 間 ・ 休 日 を 問 わ ず 、 子 供 を 預 け ら れ る 保 育 サ ー ビ ス の 整 備	小 学 生 の 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	求 職 中 に 子 供 を 預 け ら れ る サ ー ビ ス の 整 備	出 産 や 子 育 て に 関 する 情 報 提 供 や 相 談 の 場 の 整 備	子 育 て 家 庭 の 住 宅 環 境 の 整 備	社 会 全 体 で 子 育 て を 応 援 す る 機 運 の 醸 成	男 女 が 共 に 子 育 て に 携 わ る 意 識 啓 発	子 供 の 遊 び 場 環 境 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	31.6	12.0	39.0	39.6	14.3	8.2	37.6	17.3	14.7	5.6	2.4	7.2	20.5	14.4	13.5	3.9	0.0	2.7
区部	100.0 (4,697)	31.3	11.8	38.1	<u>37.9</u>	14.5	8.7	37.2	<u>18.5</u>	15.2	5.5	2.6	7.5	20.8	15.1	13.1	4.1	0.0	2.8
区中央部	100.0 (349)	29.2	11.7	37.0	32.7	15.2	8.6	32.4	<u>24.6</u>	17.5	6.6	2.0	6.9	22.6	14.0	11.2	5.7	0.3	4.0
区南部	100.0 (575)	34.3	13.2	37.6	39.1	13.2	9.0	35.8	19.3	13.6	3.8	2.6	6.3	19.0	17.2	13.2	5.0	-	3.1
区西南部	100.0 (629)	36.2	10.5	35.6	35.5	15.4	9.5	34.0	22.6	15.6	6.0	2.1	7.2	21.5	14.6	13.4	5.4	-	1.7
区西部	100.0 (785)	30.7	9.6	40.1	34.6	15.2	8.7	37.1	18.6	17.3	5.2	1.5	8.0	23.9	16.6	13.2	3.1	-	2.3
区西北部	100.0 (1,033)	31.0	13.0	40.0	36.5	14.4	9.4	35.9	16.8	15.8	4.7	3.8	7.3	21.0	14.2	14.8	4.4	-	2.6
区東北部	100.0 (645)	30.4	14.0	37.7	42.8	12.6	7.3	43.6	14.9	14.4	6.7	2.6	7.3	18.0	14.9	11.3	2.8	-	4.0
区東部	100.0 (681)	27.0	10.9	36.9	43.3	15.6	7.8	40.1	16.4	12.3	6.3	2.8	9.4	19.5	13.8	12.5	3.1	-	2.8
市・町・村部	100.0 (2,033)	32.5	12.2	40.9	<u>43.5</u>	13.9	7.2	38.5	<u>14.5</u>	13.7	5.8	1.8	6.3	19.7	12.8	14.5	3.4	-	2.6
西多摩	100.0 (250)	31.6	10.0	42.4	<u>48.8</u>	9.6	4.0	40.4	17.2	13.2	7.6	-	8.0	18.4	13.2	14.4	2.0	-	3.2
南多摩	100.0 (605)	30.2	12.6	40.5	<u>47.6</u>	11.6	8.3	35.5	12.6	13.9	5.5	2.1	6.0	20.2	13.4	16.0	4.1	-	3.0
北多摩西部	100.0 (260)	35.8	13.5	40.8	36.9	15.0	5.4	37.3	15.0	18.5	6.2	1.5	5.4	18.1	13.1	14.2	4.2	-	2.3
北多摩南部	100.0 (515)	31.3	12.6	40.4	41.4	15.3	7.0	40.2	16.7	13.2	4.5	2.7	8.2	21.4	13.6	11.8	3.7	-	1.9
北多摩北部	100.0 (403)	35.7	11.9	41.2	41.2	17.6	9.2	40.4	12.4	11.4	6.5	1.5	4.2	18.9	10.4	15.9	2.5	-	2.5

(4) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―世帯類型（母子・父子世帯）別

母子世帯では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が、父子世帯では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が 39.9%で最も高く、次いで、「子育てに理解のある職場環境の整備」が 38.6%となっている。

ひとり親世帯では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が 42.6%で最も高く、次いで、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」が 42.5%となっている。

また、母子世帯では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が 44.6%で最も高く、父子世帯では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が 40.0%で最も高くなっている。

（表Ⅲ-3-6）

表Ⅲ-3-6 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕

―世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	仕事の時間を短縮したり、	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	出産・育児のために退職した人が復職できる制度の充実	子供が病気になる制度の充実	夜間・休日を問わず、子供を預けられる保育サービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場や子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にな	無回答
総数	100.0 (6,730)	31.6	12.0	39.0	39.6	14.3	8.2	37.6	17.3	14.7	5.6	2.4	7.2	20.5	14.4	13.5	3.9	0.0	2.7
両親世帯	100.0 (6,193)	31.5	12.3	<u>38.6</u>	<u>39.9</u>	14.4	8.4	37.2	17.0	14.7	5.5	2.5	7.0	21.1	14.5	14.1	4.0	0.0	2.5
ひとり親世帯	100.0 (537)	32.8	8.2	<u>42.6</u>	36.1	14.0	6.5	<u>42.5</u>	20.3	15.1	6.3	1.1	9.5	13.6	13.0	7.1	2.6	-	6.0
母子世帯	100.0 (482)	33.0	8.3	<u>44.6</u>	35.7	15.1	7.1	44.4	20.3	15.6	6.6	1.0	9.1	12.2	12.7	7.3	2.5	-	5.0
父子世帯	100.0 (55)	30.9	7.3	25.5	<u>40.0</u>	3.6	1.8	25.5	20.0	10.9	3.6	1.8	12.7	25.5	16.4	5.5	3.6	-	14.5

(5) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―世帯の年間収入別

「200～300 万円未満」から「600～800 万円未満」の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「200 万円未満」では、「子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実」の割合が 42.4%で最も高く、「200～300 万円未満」から「600～800 万円未満」までの各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（42.5%～51.4%）。また、「800～1,000 万円未満」以上の各階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高くなっている（38.4%～43.0%）。（表Ⅲ-3-7）

表Ⅲ-3-7 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕―世帯の年間収入別

	総 数	仕事 の時間 を短縮 したり、 ずらした りする 制度	育 児休 業制 度の普 及	子 育 てに理 解のあ る職 場環 境の 整備	児 童手 当な ど経 済的 な手 当の充 実	職 場内 保 育施 設の 整備	出 産・育 児のた めに退 職した 人が 復帰で きる制 度の充 実	子 供が病 気やけ がをし たとき に 休暇を 取れる 制度の 充実	夜 間・休 日を問 わず、 子供を 預けら れる保 育サー ビスの 整備	小 学生 の子供 を預け られる サービ スの整 備	求 職中に 子供を 預けら れる サービ スの整 備	出 産や子 育てに 関する 情報提 供や 相談の 場の整 備	子 育て家 庭の住 宅環境 の整備	社 会全体 で子育て を 応援す る機運 の醸成	男 女が共 に子育て に携わ る意識 啓発	子 供の遊 び場環 境の整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	31.6	12.0	39.0	39.6	14.3	8.2	37.6	17.3	14.7	5.6	2.4	7.2	20.5	14.4	13.5	3.9	0.0	2.7
200万円未満	100.0 (236)	29.2	11.0	39.4	37.7	12.7	5.1	42.4	18.6	16.1	8.1	3.0	9.7	15.3	14.4	10.2	1.7	-	5.9
200～300万円未満	100.0 (274)	27.0	9.9	42.7	46.7	14.2	4.4	39.4	18.2	8.0	7.3	1.1	12.0	13.5	10.9	13.9	2.6	-	4.4
300～400万円未満	100.0 (486)	24.7	13.4	34.2	51.4	13.8	7.6	40.5	14.8	9.7	8.4	3.5	12.1	16.3	16.9	18.1	3.3	-	2.1
400～500万円未満	100.0 (639)	27.4	12.4	38.7	47.7	13.6	7.5	40.8	15.3	11.6	6.9	1.9	9.7	19.2	11.6	14.1	2.8	-	2.7
500～600万円未満	100.0 (922)	28.6	12.9	37.0	47.3	14.5	7.6	40.5	16.1	11.8	5.1	2.4	8.1	18.5	13.6	15.2	3.5	-	2.7
600～800万円未満	100.0 (1,451)	31.4	12.1	38.2	42.5	13.0	8.2	39.1	15.6	12.5	6.1	3.0	7.0	22.1	13.8	13.6	4.3	-	2.4
800～1,000万円未満	100.0 (1,020)	34.2	11.7	41.5	35.6	14.5	8.7	34.7	18.1	16.2	4.3	1.9	4.9	22.3	12.6	12.4	3.5	0.1	3.8
1,000～1,200万円未満	100.0 (750)	34.9	11.5	38.4	31.3	15.9	8.4	35.9	19.2	22.9	3.9	2.1	4.8	23.6	17.5	12.4	5.5	-	0.9
1,200～1,500万円未満	100.0 (419)	42.0	11.9	43.0	22.0	15.5	11.9	31.7	21.0	23.9	3.6	1.7	3.3	23.2	17.4	9.3	6.9	-	0.7
1,500万円以上	100.0 (339)	36.6	11.5	41.6	20.9	17.4	9.7	29.8	24.5	17.7	4.1	2.7	5.0	21.8	19.5	12.1	4.1	-	3.2

3 子育てをされていて日ごろ感じること

(1) 子育てをされていて日ごろ感じること

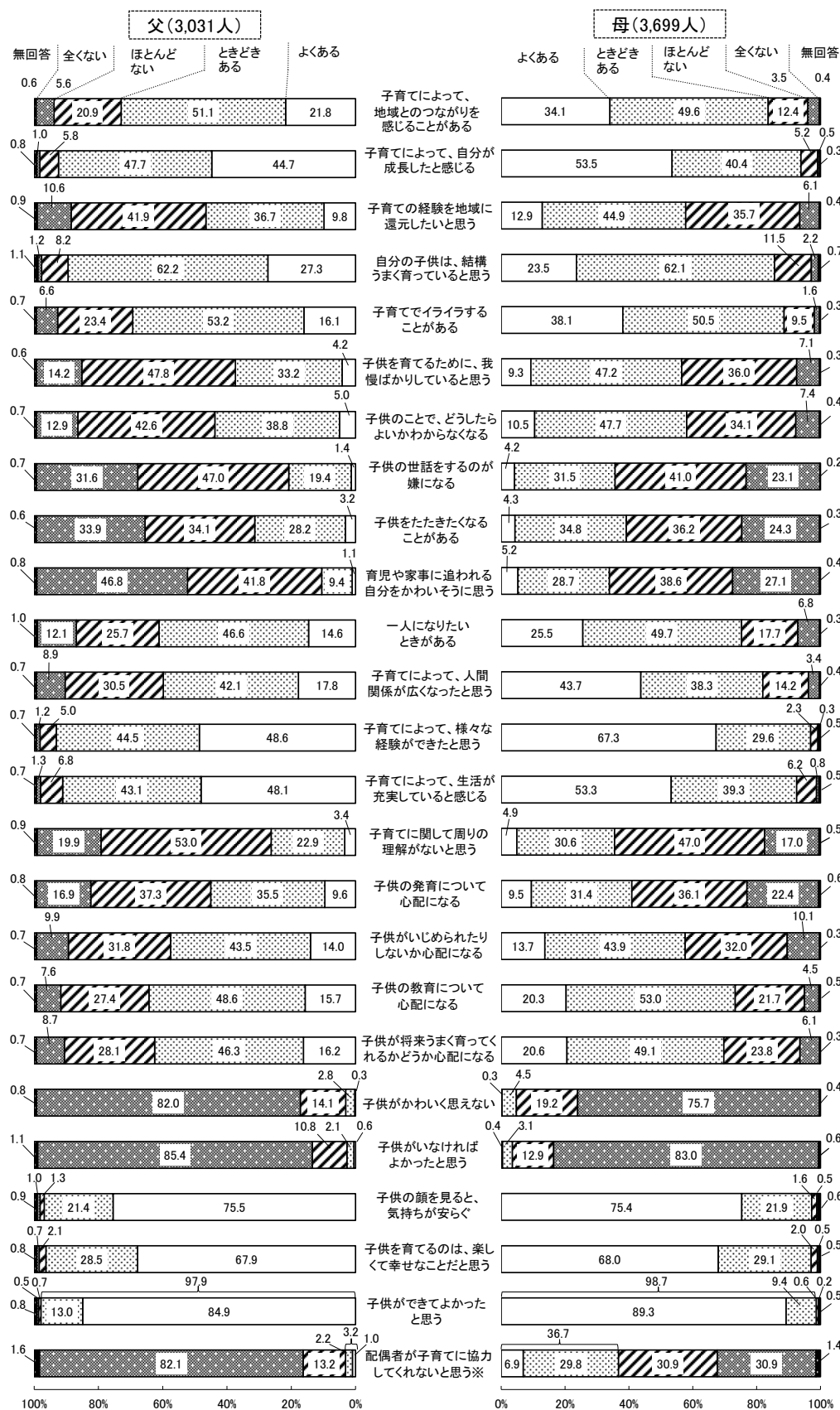
「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」について「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母は3割超

対象者全員に子育てをされていて日ごろ感じることを聞いたところ、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、父母ともに「子供ができてよかったと思う」で、父が97.9%、母は98.7%となっている。

「子育てでイライラすることがある」、「子育てによって、人間関係が広がったと思う」では、「よくある」の割合について、母が父を20ポイント以上上回っている（父16.1%、17.8%、母38.1%、43.7%）。

また、「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母が36.7%、父は3.2%で、母が33.5ポイント高くなっている。（図Ⅲ-3-3）

図Ⅲ-3-3 子育てをしていて日ごろ感じること



(注)「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている(総数=父 2,976人、母 3,217人)

(2) 子育てをしていて日ごろ感じること－相談相手の有無別

「子育てによって、生活が充実していると感じる」について、「よくある」と回答した割合は、父母ともに、相談相手が「いる」の方が「いないので欲しい」よりも高い

子育てをしていて日ごろ感じることを相談相手の有無別にみると、「子育てによって、生活が充実していると感じる」ことが、「よくある」人の割合は、父母ともに、相談相手が「いる」方が「いないので欲しい」よりも高くなっている（父 51.0%、28.0%、母 54.2%、31.6%）。

「子供の教育について心配になる」ことが「よくある」人の割合は、父母ともに、相談相手が「いないので欲しい」の方が「いる」よりも高くなっている（父 40.9%、15.2%、母 46.8%、19.6%）。

相談相手が「いないので欲しい」人では、「子育てでイライラすることがある」ことが「よくある」母は 54.4%で、父（24.7%）に比べて 29.7 ポイント高くなっている。（表Ⅲ-3-8）

表Ⅲ-3-8 子育てをしていて日ごろ感じること－相談相手の有無別

	子育てによって、生活が充実していると感じる						子供の教育について心配になる						子育てでイライラすることがある					
	総 数	よ く あ る	あ と き ど き	な ほ い と ん ど	全 く な い	無 回 答	総 数	よ く あ る	あ と き ど き	な ほ い と ん ど	全 く な い	無 回 答	総 数	よ く あ る	あ と き ど き	な ほ い と ん ど	全 く な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	50.9	41.0	6.5	1.0	0.6	100.0 (6,730)	18.2	51.0	24.3	5.9	0.6	100.0 (6,730)	28.2	51.7	15.7	3.9	0.5
父	100.0 (3,031)	48.1	43.1	6.8	1.3	0.7	100.0 (3,031)	15.7	48.6	27.4	7.6	0.7	100.0 (3,031)	16.1	53.2	23.4	6.6	0.7
いる	100.0 (2,563)	<u>51.0</u>	42.2	5.6	0.8	0.4	100.0 (2,563)	<u>15.2</u>	50.0	27.7	6.7	0.4	100.0 (2,563)	15.7	54.4	23.7	5.8	0.4
いないので欲しい	100.0 (93)	<u>28.0</u>	57.0	12.9	1.1	1.1	100.0 (93)	<u>40.9</u>	50.5	6.5	1.1	1.1	100.0 (93)	<u>24.7</u>	54.8	11.8	7.5	1.1
必要ない	100.0 (346)	32.9	46.8	14.7	5.5	—	100.0 (346)	12.1	38.4	33.2	15.9	0.3	100.0 (346)	16.5	45.4	24.9	13.3	—
母	100.0 (3,699)	53.3	39.3	6.2	0.8	0.5	100.0 (3,699)	20.3	53.0	21.7	4.5	0.5	100.0 (3,699)	38.1	50.5	9.5	1.6	0.3
いる	100.0 (3,542)	<u>54.2</u>	39.1	5.6	0.6	0.4	100.0 (3,542)	<u>19.6</u>	53.5	22.0	4.6	0.4	100.0 (3,542)	37.7	51.0	9.4	1.6	0.3
いないので欲しい	100.0 (79)	<u>31.6</u>	44.3	21.5	1.3	1.3	100.0 (79)	<u>46.8</u>	40.5	10.1	1.3	1.3	100.0 (79)	<u>54.4</u>	35.4	7.6	1.3	1.3
必要ない	100.0 (61)	29.5	44.3	18.0	8.2	—	100.0 (61)	26.2	42.6	24.6	6.6	—	100.0 (61)	41.0	41.0	16.4	1.6	—

（注）相談相手の有無については、次頁以降で詳細を記述する。

4 相談相手

(1) 相談相手の有無及び相談相手〔複数回答〕

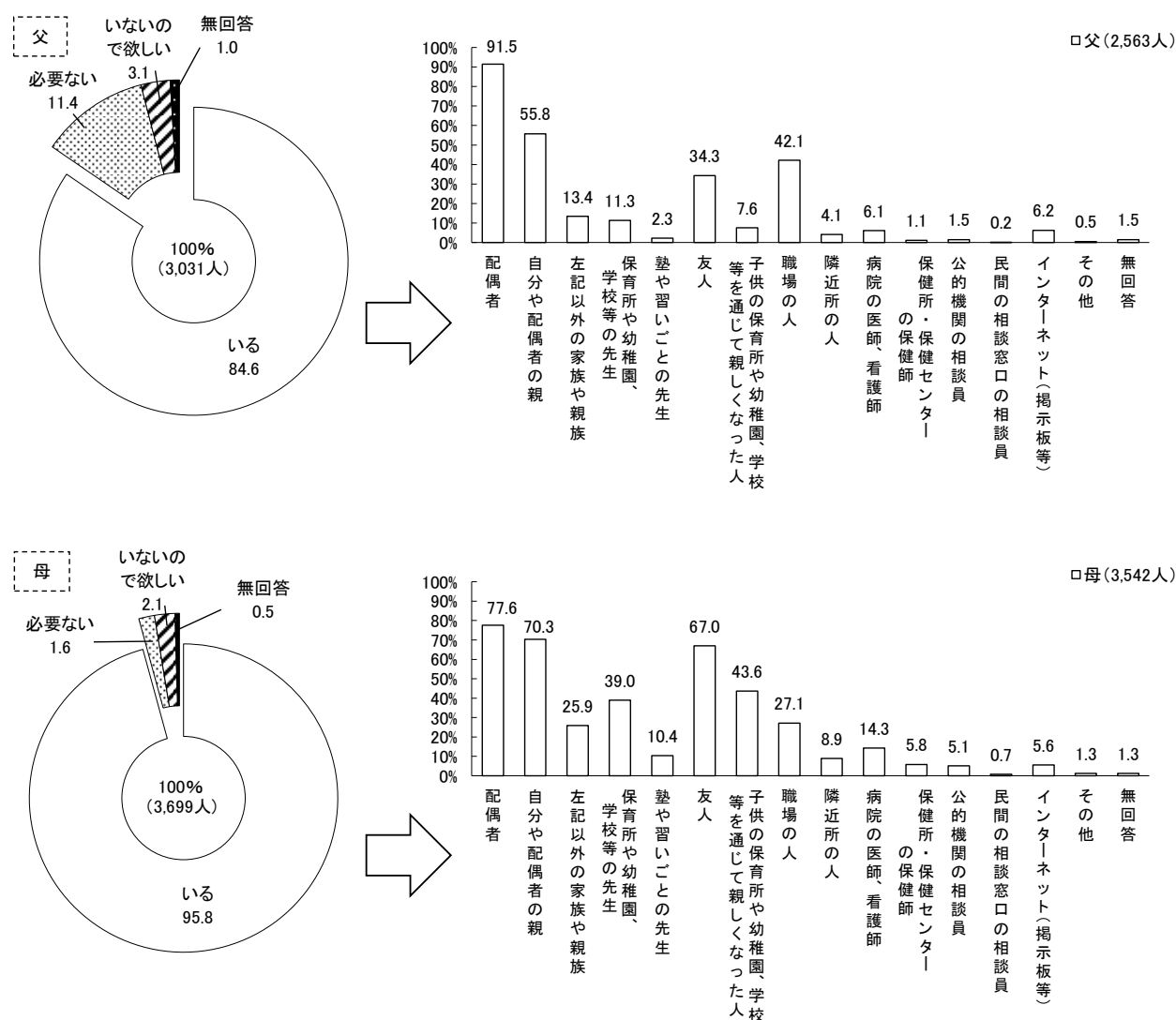
「いる」の割合は、父は8割強、母は9割超で、相談相手は「配偶者」の割合が最も高い

対象者全員に子供についての悩みや心配事を相談する相手がいるかどうか聞いたところ、「いる」の割合は、父が84.6%、母は95.8%となっている。

また、「いる」と回答した父母(6,105人)に、誰に相談しているか聞いたところ、父母ともに、「配偶者」の割合が最も高く(91.5%、77.6%)、次いで「自分や配偶者の親」(55.8%、70.3%)となっている。

「職場の人」の割合は、父が42.1%、母は27.1%で、父が15.0ポイント高く、「友人」の割合は、母が67.0%、父は34.3%で、母が32.7ポイント高くなっている。(図Ⅲ-3-4)

図Ⅲ-3-4 相談相手の有無及び相談相手〔複数回答〕



(2) 相談相手〔複数回答〕一性・年齢階級別

父は全ての階級で、母は「45～49歳」以下の全ての階級で「配偶者」の割合が最も高い

相談相手を性・年齢階級別にみると、父は全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高くなっている（89.0%～93.1%）。母は「45～49歳」以下の全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高いが（67.5%～85.6%）、「50歳以上」では「友人」が最も高く、64.8%となっている。（表Ⅲ-3-9）

表Ⅲ-3-9 相談相手〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供の保育所や幼稚園、学校等を通じて親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（掲示板等）	その他	無回答
総数	100.0 (6,105)	83.4	64.2	20.6	27.4	7.0	53.3	28.5	33.4	6.9	10.9	3.8	3.6	0.5	5.9	1.0	1.4
父	100.0 (2,563)	91.5	55.8	13.4	11.3	2.3	34.3	7.6	42.1	4.1	6.1	1.1	1.5	0.2	6.2	0.5	1.5
29歳以下	100.0 (77)	<u>90.9</u>	70.1	15.6	3.9	-	32.5	2.6	64.9	1.3	5.2	-	-	-	3.9	-	-
30～34歳	100.0 (389)	<u>93.1</u>	68.6	15.9	10.5	0.3	37.8	3.1	53.5	3.3	6.2	1.0	0.8	-	5.7	0.5	1.0
35～39歳	100.0 (674)	<u>92.0</u>	58.2	13.8	11.3	1.8	33.4	5.0	43.9	4.6	6.1	1.8	1.5	0.3	6.4	0.7	2.2
40～44歳	100.0 (767)	<u>92.2</u>	55.7	11.7	13.7	2.9	34.2	9.8	40.3	3.7	6.4	0.5	1.6	0.1	6.8	0.4	1.3
45～49歳	100.0 (472)	<u>89.0</u>	46.4	13.8	8.7	3.0	33.3	11.0	36.9	4.0	5.1	1.3	1.7	0.2	6.1	0.4	1.3
50歳以上	100.0 (184)	<u>89.7</u>	38.0	12.0	13.0	5.4	34.2	10.9	23.4	7.6	7.6	1.1	2.7	0.5	6.0	0.5	1.6
母	100.0 (3,542)	77.6	70.3	25.9	39.0	10.4	67.0	43.6	27.1	8.9	14.3	5.8	5.1	0.7	5.6	1.3	1.3
29歳以下	100.0 (188)	<u>80.3</u>	86.2	28.2	28.7	0.5	68.6	22.9	27.7	5.9	18.6	10.1	3.2	-	8.0	1.1	1.1
30～34歳	100.0 (634)	<u>85.6</u>	80.4	27.0	43.8	5.2	67.0	37.2	27.4	8.5	18.3	10.3	6.6	0.5	6.9	0.9	0.3
35～39歳	100.0 (1,009)	<u>83.1</u>	74.3	25.8	43.4	8.1	67.5	45.5	27.3	9.4	15.7	7.2	5.2	0.8	6.4	1.0	1.0
40～44歳	100.0 (1,054)	<u>76.7</u>	68.7	23.2	37.9	13.9	66.8	49.0	25.7	9.3	12.2	3.8	5.0	1.0	4.6	1.2	1.4
45～49歳	100.0 (535)	<u>67.5</u>	57.0	26.5	33.8	17.0	66.5	46.0	28.2	8.4	10.8	1.7	4.3	0.6	2.6	1.7	2.8
50歳以上	100.0 (122)	38.5	32.8	36.9	24.6	13.1	<u>64.8</u>	36.1	29.5	9.8	9.0	0.8	4.1	0.8	9.0	4.1	0.8

(3) 相談相手〔複数回答〕一世帯類型（母子・父子世帯）別

両親世帯では「配偶者」、ひとり親世帯では「友人」の割合が最も高い

相談相手を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、両親世帯では、「配偶者」の割合が90.4%で最も高く、次いで、「自分や配偶者の親」が65.3%、「友人」が51.9%となっている。

ひとり親世帯では、「友人」の割合が69.5%で最も高く、次いで「自分や配偶者の親」が50.8%、「職場の人」が39.7%となっている。（表Ⅲ-3-10）

表Ⅲ-3-10 相談相手〔複数回答〕一世帯類型（母子・父子世帯）別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供の保育所や幼稚園、学校等を通じて親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（掲示板等）	その他	無回答
総数	100.0 (6,105)	83.4	64.2	20.6	27.4	7.0	53.3	28.5	33.4	6.9	10.9	3.8	3.6	0.5	5.9	1.0	1.4
両親世帯	100.0 (5,627)	<u>90.4</u>	<u>65.3</u>	19.7	27.6	6.9	<u>51.9</u>	28.3	32.9	7.1	11.1	4.0	3.6	0.5	6.0	0.8	1.4
ひとり親世帯	100.0 (478)	0.6	<u>50.8</u>	32.2	24.5	8.4	<u>69.5</u>	31.0	<u>39.7</u>	4.4	7.7	2.5	3.1	0.6	4.2	3.1	1.5
母子世帯	100.0 (438)	0.5	52.5	32.0	25.3	8.9	70.8	32.4	40.0	4.6	8.2	2.3	2.7	0.7	4.3	3.4	1.4
父子世帯	100.0 (40)	2.5	32.5	35.0	15.0	2.5	55.0	15.0	37.5	2.5	2.5	5.0	7.5	-	2.5	-	2.5

(4) 相談相手の有無及び誰に相談したいか〔複数回答〕

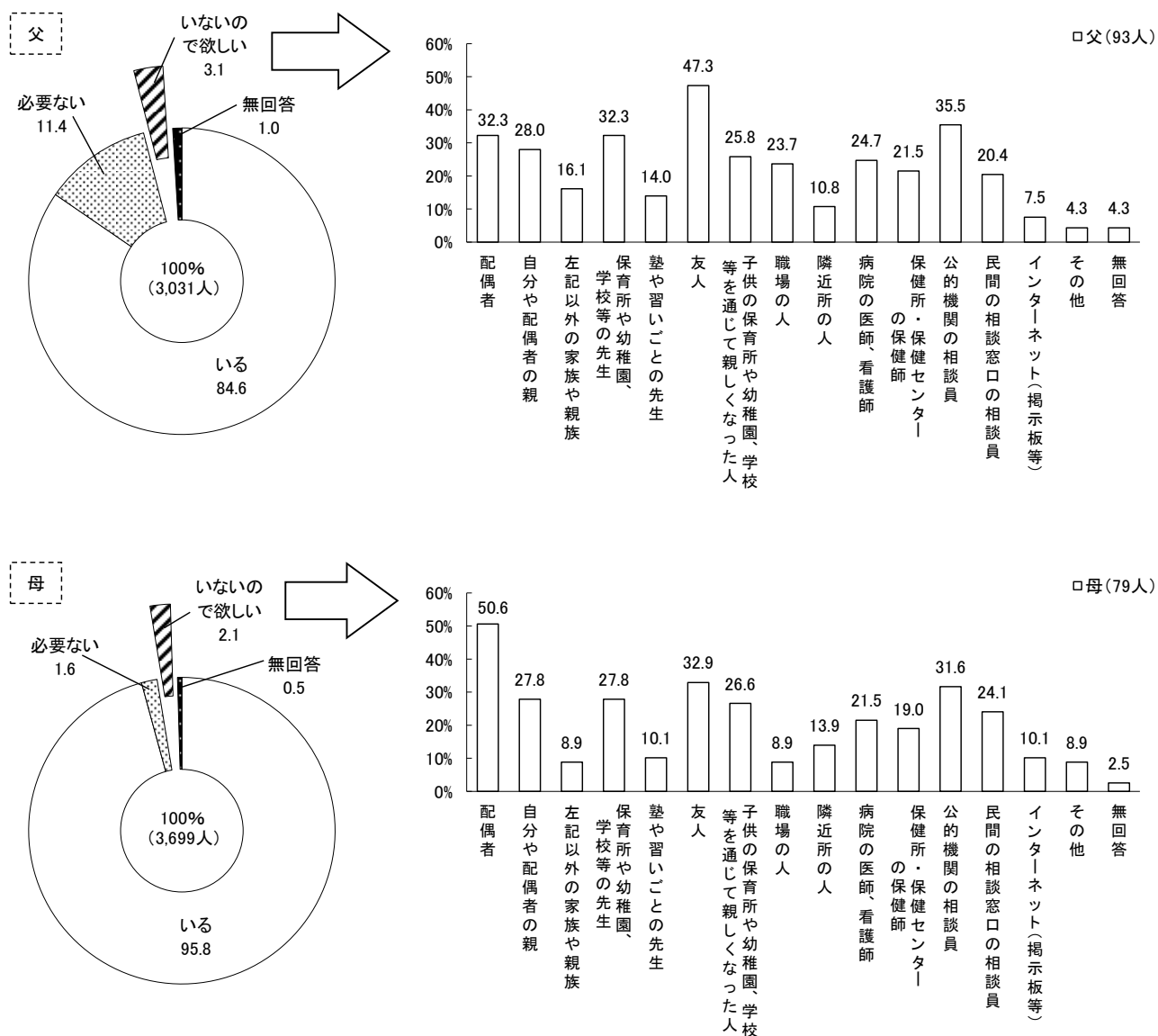
父は「友人」、母は「配偶者」の割合が最も高い

対象者全員に子供についての悩みや心配事を相談する相手がいるかどうか聞いたところ、「いないので欲しい」の割合は、父が3.1%、母は2.1%となっている。

また、「いないので欲しい」と回答した父母（172人）に、誰に相談したいか聞いたところ、父は、「友人」の割合が47.3%で最も高く、次いで、「公的機関の相談員」が35.5%となっている。

一方、母は、「配偶者」の割合が50.6%で最も高く、次いで、「友人」が32.9%となっている。（図Ⅲ-3-5）

図Ⅲ-3-5 相談相手の有無及び誰に相談したいか〔複数回答〕



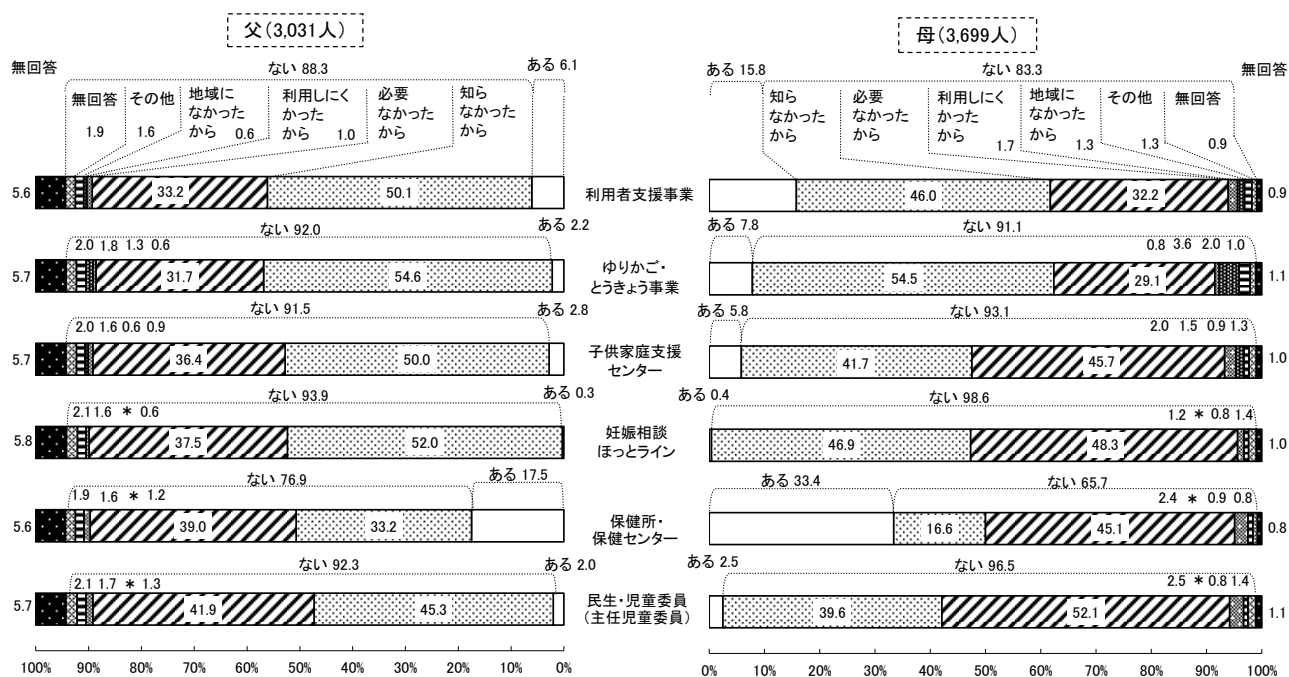
5 相談窓口の利用の有無及びその理由

(1) 妊娠期における相談窓口の利用の有無及びその理由

「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は、母は3割強

母が子を妊娠しているときの相談窓口の利用の有無及び利用しなかった理由を聞いたところ、「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は父が17.5%、母が33.4%となっている。(図Ⅲ-3-6)

図Ⅲ-3-6 妊娠期における相談窓口の利用の有無及びその理由



(注) * 「妊娠相談ほっとライン」・「保健所・保健センター」・「民生・児童委員 (主任児童委員)」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(2) 妊娠期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別

「利用したことがある」割合は、「子供家庭支援センター」は市・町・村部の方が、「保健所・保健センター」は区部の方が、それぞれ高い

母が子を妊娠しているときの相談窓口の利用の有無及び利用しなかった理由を地域別にみると、「子供家庭支援センター」を「利用したことがある」割合は、区部が3.9%、市・町・村部が5.9%で、市・町・村部の方が高くなっている。また、「利用したことがない」理由が、「知らなかったから」の割合は、区部が47.1%、市・町・村部は41.6%で、区部の方が高くなっている。

一方、「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は、区部が27.1%、市・町・村部が24.3%で、区部の方が高くなっている。(表Ⅲ-3-11)

表Ⅲ-3-11 妊娠期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別

	利用者支援事業										ゆりかご・とうきょう事業									
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかつたから	利用しにくかつたから	地域になかつたから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかつたから	利用しにくかつたから	地域になかつたから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (6,730)	11.5	85.5	47.8	32.6	1.4	1.0	1.4	1.4	3.0	100.0 (6,730)	5.3	91.5	54.5	30.3	0.7	2.6	1.9	1.5	3.2
区部	100.0 (4,697)	11.2	85.9	48.6	32.3	1.3	1.0	1.5	1.1	2.9	100.0 (4,697)	5.3	91.6	54.9	30.0	0.7	2.7	2.0	1.4	3.1
区中央部	100.0 (349)	9.7	87.4	45.8	35.5	2.0	1.1	0.6	2.3	2.9	100.0 (349)	6.9	90.0	47.9	33.5	1.1	2.6	2.3	2.6	3.2
区南部	100.0 (575)	10.3	87.3	48.5	34.1	1.9	0.7	1.6	0.5	2.4	100.0 (575)	4.5	92.7	55.5	31.3	0.5	2.6	1.7	1.0	2.8
区西南部	100.0 (629)	9.7	88.1	52.6	28.8	1.3	1.6	1.9	1.9	2.2	100.0 (629)	3.7	94.0	59.5	26.2	0.6	3.3	2.1	2.2	2.4
区西部	100.0 (785)	14.6	82.8	46.4	31.2	1.1	0.6	2.2	1.3	2.5	100.0 (785)	7.8	89.6	52.4	29.7	0.5	3.3	2.3	1.4	2.7
区西北部	100.0 (1,033)	10.9	85.8	48.5	31.6	1.9	1.0	1.5	1.3	3.3	100.0 (1,033)	5.4	91.0	55.8	29.6	0.7	1.7	1.9	1.3	3.6
区東北部	100.0 (645)	10.7	86.7	50.4	32.2	0.9	0.9	1.6	0.6	2.6	100.0 (645)	4.0	93.3	55.0	30.2	0.9	3.9	2.2	1.1	2.6
区東部	100.0 (681)	10.7	85.2	47.4	34.9	0.3	1.2	0.7	0.6	4.1	100.0 (681)	4.7	90.9	55.2	31.1	0.4	1.8	1.6	0.7	4.4
市・町・村部	100.0 (2,033)	12.1	84.7	46.0	33.3	1.4	0.8	1.2	1.8	3.2	100.0 (2,033)	5.4	91.3	53.8	31.0	0.7	2.4	1.8	1.7	3.2
西多摩	100.0 (250)	12.4	83.6	44.8	32.8	2.0	1.2	1.2	1.6	4.0	100.0 (250)	4.0	91.6	52.0	33.2	0.8	2.8	0.8	2.0	4.4
南多摩	100.0 (605)	11.1	85.8	45.6	35.5	1.2	0.5	1.0	2.0	3.1	100.0 (605)	3.8	93.4	56.2	30.7	0.5	2.5	1.7	1.8	2.8
北多摩西部	100.0 (260)	9.6	87.3	46.9	35.4	1.5	0.8	1.5	1.2	3.1	100.0 (260)	4.6	91.5	52.7	34.2	0.8	1.5	1.2	1.2	3.8
北多摩南部	100.0 (515)	13.6	83.3	44.9	32.2	1.7	1.2	1.6	1.7	3.1	100.0 (515)	6.8	90.1	52.4	30.3	1.0	2.5	2.3	1.6	3.1
北多摩北部	100.0 (403)	13.4	83.6	48.1	30.5	1.0	0.7	1.0	2.2	3.0	100.0 (403)	7.4	89.6	53.6	28.8	0.5	2.5	2.5	1.7	3.0

表Ⅲ-3-11 妊娠期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別（続き）

	子供家庭支援センター										妊娠相談ほっとライン※								
	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か っ た か ら	必 要 な か っ た か ら	利 用 し に く か っ た か ら	地 域 に な か っ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か っ た か ら	必 要 な か っ た か ら	利 用 し に く か っ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	4.5	92.4	45.4	41.5	1.5	1.1	1.2	1.6	3.1	100.0 (6,730)	0.3	96.5	49.2	43.5	1.0	1.2	1.7	3.2
区部	100.0 (4,697)	3.9	93.0	47.1	40.8	1.1	1.2	1.3	1.6	3.1	100.0 (4,697)	0.4	96.5	49.6	43.2	0.8	1.2	1.7	3.1
区中央部	100.0 (349)	5.4	91.1	40.1	45.0	1.4	1.1	0.6	2.9	3.4	100.0 (349)	0.3	96.6	46.1	45.3	2.0	0.6	2.6	3.2
区南部	100.0 (575)	2.6	94.8	50.3	40.0	1.2	1.0	1.4	0.9	2.6	100.0 (575)	0.7	96.7	50.8	42.4	1.0	1.2	1.2	2.6
区西南部	100.0 (629)	2.9	94.9	52.9	34.8	1.7	1.4	1.7	2.2	2.2	100.0 (629)	0.5	97.1	52.6	39.4	0.6	1.7	2.7	2.4
区西部	100.0 (785)	3.6	93.9	46.5	42.3	0.8	0.9	1.5	1.9	2.5	100.0 (785)	－	97.5	48.9	44.5	0.6	1.4	2.0	2.5
区西北部	100.0 (1,033)	4.8	91.7	45.3	40.9	1.4	1.3	1.2	1.6	3.5	100.0 (1,033)	0.6	95.9	49.3	43.1	0.8	1.3	1.5	3.5
区東北部	100.0 (645)	2.5	94.6	47.0	42.2	0.8	1.4	2.0	1.2	2.9	100.0 (645)	0.5	96.6	49.3	43.4	0.8	1.9	1.2	2.9
区東部	100.0 (681)	5.4	90.5	46.1	41.6	0.9	1.0	0.1	0.7	4.1	100.0 (681)	0.3	95.3	48.9	44.9	0.6	0.1	0.7	4.4
市・町・村部	100.0 (2,033)	5.9	90.9	41.6	43.3	2.3	0.8	1.0	1.8	3.3	100.0 (2,033)	0.2	96.5	48.4	44.0	1.2	1.1	1.8	3.3
西多摩	100.0 (250)	5.2	90.4	44.8	40.0	2.8	0.4	0.8	1.6	4.4	100.0 (250)	0.8	94.8	48.4	42.0	2.0	0.8	1.6	4.4
南多摩	100.0 (605)	5.8	91.2	42.1	42.8	2.3	0.7	0.8	2.5	3.0	100.0 (605)	0.2	96.9	49.8	42.8	1.0	1.2	2.1	3.0
北多摩西部	100.0 (260)	5.0	91.5	40.0	47.7	0.8	1.2	1.2	0.8	3.5	100.0 (260)	－	96.9	48.5	45.0	1.2	1.2	1.2	3.1
北多摩南部	100.0 (515)	7.4	89.3	39.2	44.3	2.1	1.0	1.4	1.4	3.3	100.0 (515)	0.2	96.5	45.0	47.0	1.6	1.4	1.6	3.3
北多摩北部	100.0 (403)	5.0	92.1	42.9	41.9	3.0	1.0	1.0	2.2	3.0	100.0 (403)	－	96.8	50.4	42.7	0.7	1.0	2.0	3.2

	保健所・保健センター※									民生・児童委員(主任児童委員)※								
	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か っ た か ら	必 要 な か っ た か ら	利 用 し に く か っ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か っ た か ら	必 要 な か っ た か ら	利 用 し に く か っ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	26.2	70.8	24.1	42.3	1.8	1.2	1.3	3.0	100.0 (6,730)	2.3	94.6	42.2	47.5	2.0	1.2	1.7	3.2
区部	100.0 (4,697)	27.1	70.0	24.6	41.1	1.8	1.2	1.2	2.9	100.0 (4,697)	2.2	94.7	43.4	46.5	1.8	1.2	1.7	3.1
区中央部	100.0 (349)	27.2	70.2	22.6	42.7	2.0	0.9	2.0	2.6	100.0 (349)	2.3	94.6	39.3	50.1	1.7	0.9	2.6	3.2
区南部	100.0 (575)	25.2	72.2	27.1	40.7	2.1	1.4	0.9	2.6	100.0 (575)	1.7	95.7	45.6	45.7	1.6	1.2	1.6	2.6
区西南部	100.0 (629)	18.0	79.7	31.2	42.3	2.1	1.9	2.2	2.4	100.0 (629)	2.4	95.1	46.1	42.1	2.4	1.7	2.7	2.5
区西部	100.0 (785)	29.4	68.0	22.7	40.4	1.8	1.8	1.4	2.5	100.0 (785)	1.7	95.8	40.8	48.7	2.4	1.8	2.2	2.5
区西北部	100.0 (1,033)	30.2	66.7	24.2	38.2	1.9	1.0	1.4	3.1	100.0 (1,033)	2.3	94.1	44.5	45.3	1.7	1.2	1.4	3.6
区東北部	100.0 (645)	30.7	66.2	21.1	42.0	1.2	1.4	0.5	3.1	100.0 (645)	2.6	94.6	43.7	46.5	1.6	1.4	1.4	2.8
区東部	100.0 (681)	26.0	70.0	23.6	43.9	1.6	0.3	0.6	4.0	100.0 (681)	2.3	93.4	42.3	48.9	1.3	0.1	0.7	4.3
市・町・村部	100.0 (2,033)	24.3	72.6	22.9	45.2	1.9	1.3	1.4	3.0	100.0 (2,033)	2.4	94.3	39.3	49.8	2.4	1.1	1.7	3.3
西多摩	100.0 (250)	36.0	60.4	17.6	38.4	2.4	1.2	0.8	3.6	100.0 (250)	4.0	91.6	40.0	47.2	2.0	1.2	1.2	4.4
南多摩	100.0 (605)	22.5	74.4	23.3	46.4	1.3	1.3	2.0	3.1	100.0 (605)	2.1	94.9	39.7	49.6	2.3	1.0	2.3	3.0
北多摩西部	100.0 (260)	21.5	75.8	22.7	49.2	1.5	1.2	1.2	2.7	100.0 (260)	3.5	93.1	39.6	48.8	2.7	1.2	0.8	3.5
北多摩南部	100.0 (515)	24.9	71.8	23.7	42.7	2.9	1.6	1.0	3.3	100.0 (515)	1.2	95.5	38.6	50.7	3.1	1.4	1.7	3.3
北多摩北部	100.0 (403)	21.1	76.4	24.6	47.9	1.2	1.0	1.7	2.5	100.0 (403)	2.7	94.3	39.0	51.1	1.5	1.0	1.7	3.0

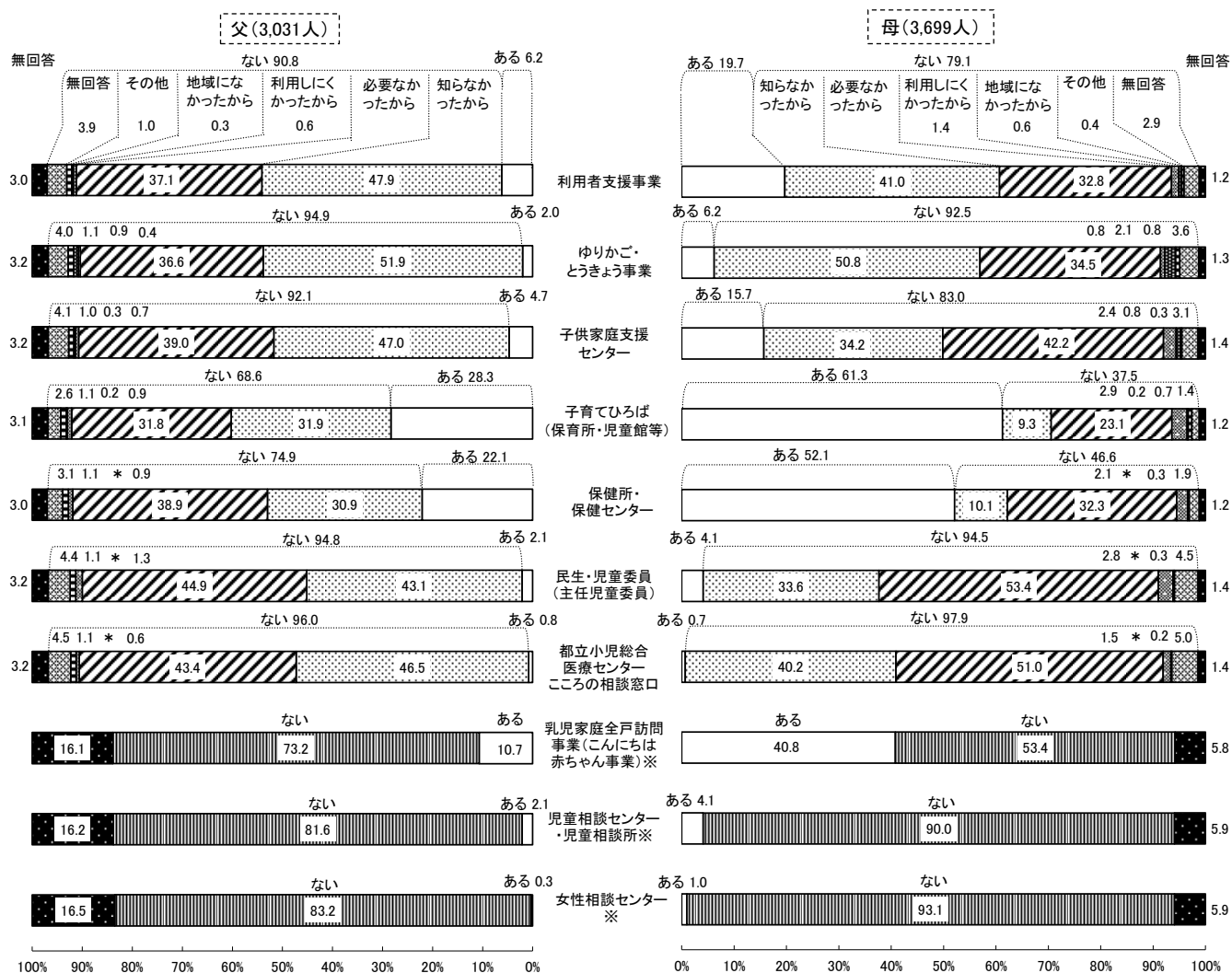
（注）※「妊娠相談ほっとライン」・「保健所・保健センター」・「民生・児童委員（主任児童委員）」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(3) 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由

「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は、母が6割強

子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用しなかった理由を聞いたところ、「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は父が28.3%、母が61.3%となっている。（図Ⅲ-3-7）

図Ⅲ-3-7 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由



(注) * 「保健所・保健センター」「民生・児童委員 (主任児童委員)」「都立小児総合医療センターこころの相談窓口」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(注) ※ 「乳児家庭全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん事業)」「児童相談センター・児童相談所」「女性相談センター」については、利用の有無のみを尋ね、利用しなかった理由は聞いていない。

(4) 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別

「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は、区部の方が、市・町・村部よりも高い

子育て期における相談窓口の利用の有無及び利用しなかった理由を地域別にみると、「子供家庭支援センター」を「利用したことがある」割合は、区部が9.1%、市・町・村部は14.6%で、市・町・村部の方が高くなっている。

一方、「保健所・保健センター」を「利用したことがある」割合は、区部が39.7%、市・町・村部が36.2%で、区部の方が高くなっている。また、「子育てひろば（保育所・児童館等）」を「利用したことがある」割合は、区部が47.0%、市・町・村部は45.3%で、区部の方が高くなっており、全ての地域で4割以上となっている（40.3%～49.2%）。（表Ⅲ-3-12）

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別

	利用者支援事業										ゆりかご・とうきょう事業									
	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答	総数	利用したことがある	利用したことがない	知らなかったから	必要なかったから	利用しにくかったから	地域になかったから	その他	無回答	無回答
総数	100.0 (6,730)	13.7	84.4	44.1	34.8	1.0	0.5	0.7	3.3	2.0	100.0 (6,730)	4.3	93.6	51.3	35.4	0.6	1.6	0.9	3.8	2.1
区部	100.0 (4,697)	13.5	84.5	44.7	34.0	1.1	0.5	0.7	3.5	2.0	100.0 (4,697)	4.2	93.7	51.6	34.9	0.6	1.5	1.0	4.0	2.2
区中央部	100.0 (349)	11.5	85.7	41.3	38.7	1.1	0.3	0.6	3.7	2.9	100.0 (349)	2.3	94.6	49.3	38.4	0.6	1.1	0.9	4.3	3.2
区南部	100.0 (575)	12.5	87.0	45.4	37.0	1.4	0.3	-	2.8	0.5	100.0 (575)	4.5	94.8	51.5	38.4	0.5	1.4	0.2	2.8	0.7
区西南部	100.0 (629)	12.2	86.3	49.4	29.7	0.8	0.8	1.4	4.1	1.4	100.0 (629)	3.2	95.1	54.4	31.2	0.5	2.2	1.6	5.2	1.7
区西部	100.0 (785)	16.8	81.9	43.2	33.6	0.8	0.4	1.4	2.5	1.3	100.0 (785)	5.9	92.7	51.0	35.2	0.6	1.7	1.5	2.8	1.4
区西北部	100.0 (1,033)	14.2	83.9	43.9	32.2	1.9	0.4	0.5	4.9	1.8	100.0 (1,033)	4.8	93.0	50.9	33.9	0.9	0.8	0.9	5.7	2.1
区東北部	100.0 (645)	12.6	85.3	44.7	35.3	0.8	0.5	0.9	3.1	2.2	100.0 (645)	2.8	94.6	51.8	34.9	0.5	2.3	1.4	3.7	2.6
区東部	100.0 (681)	12.8	83.3	44.2	35.1	0.6	0.7	0.1	2.5	4.0	100.0 (681)	4.0	92.2	52.1	35.1	0.1	1.3	0.6	2.9	3.8
市・町・村部	100.0 (2,033)	13.9	84.0	42.9	36.4	0.8	0.4	0.5	3.0	2.1	100.0 (2,033)	4.7	93.3	50.5	36.6	0.8	1.7	0.6	3.1	2.0
西多摩	100.0 (250)	14.0	82.0	42.4	36.8	0.4	0.4	-	2.0	4.0	100.0 (250)	5.6	90.4	51.2	34.4	1.2	2.0	-	1.6	4.0
南多摩	100.0 (605)	12.6	85.5	44.0	37.2	1.0	0.3	0.7	2.3	2.0	100.0 (605)	2.6	95.7	54.9	35.5	0.5	1.8	0.8	2.1	1.7
北多摩西部	100.0 (260)	13.5	86.2	43.5	37.7	0.8	0.4	1.2	2.7	0.4	100.0 (260)	4.2	94.2	49.6	38.8	0.4	1.9	0.8	2.7	1.5
北多摩南部	100.0 (515)	15.7	81.9	41.0	35.3	1.0	0.4	0.8	3.5	2.3	100.0 (515)	6.2	91.7	47.2	36.9	1.2	1.4	0.6	4.5	2.1
北多摩北部	100.0 (403)	13.9	84.4	43.7	35.5	0.7	0.5	-	4.0	1.7	100.0 (403)	5.5	93.1	48.1	37.7	0.7	1.7	0.5	4.2	1.5

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別（続き）

	子供家庭支援センター										子育てひろば（保育所・児童館等）									
	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か つ た か ら	必 要 な か つ た か ら	利 用 し に く か つ た か ら	地 域 に な か つ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か つ た か ら	必 要 な か つ た か ら	利 用 し に く か つ た か ら	地 域 に な か つ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	10.7	87.1	40.0	40.7	1.6	0.5	0.6	3.6	2.2	100.0 (6,730)	46.5	51.5	19.5	27.0	2.0	0.2	0.9	1.9	2.0
区部	100.0 (4,697)	<u>9.1</u>	88.6	41.8	40.2	1.4	0.6	0.7	4.0	2.3	100.0 (4,697)	<u>47.0</u>	50.9	19.8	26.1	1.9	0.2	1.0	2.0	2.1
区中央部	100.0 (349)	15.5	79.7	35.5	38.4	0.9	0.3	0.6	4.0	4.9	100.0 (349)	<u>49.0</u>	47.9	18.9	24.9	1.1	－	0.6	2.3	3.2
区南部	100.0 (575)	6.3	92.9	46.8	41.6	1.0	0.3	0.2	3.0	0.9	100.0 (575)	<u>46.6</u>	52.3	20.2	27.0	2.6	－	0.7	1.9	1.0
区西南部	100.0 (629)	4.8	93.8	49.8	35.3	1.3	1.0	1.4	5.1	1.4	100.0 (629)	<u>46.4</u>	52.3	22.1	22.6	2.4	0.3	1.6	3.3	1.3
区西部	100.0 (785)	9.2	89.6	41.5	42.8	0.8	0.5	1.3	2.7	1.3	100.0 (785)	<u>49.2</u>	49.7	19.5	26.0	1.7	－	1.1	1.4	1.1
区西北部	100.0 (1,033)	10.7	87.0	39.0	39.1	1.7	0.4	0.6	6.2	2.2	100.0 (1,033)	<u>48.3</u>	49.8	18.5	26.3	1.8	0.1	0.9	2.1	1.9
区東北部	100.0 (645)	7.9	89.3	39.8	42.9	2.0	0.8	0.6	3.1	2.8	100.0 (645)	<u>46.4</u>	50.5	18.9	26.7	1.6	0.2	1.1	2.2	3.1
区東部	100.0 (681)	10.6	85.6	39.8	40.4	1.5	0.9	0.3	2.8	3.8	100.0 (681)	<u>43.0</u>	53.6	20.9	28.5	1.9	0.6	0.6	1.2	3.4
市・町・村部	100.0 (2,033)	<u>14.6</u>	83.5	35.7	42.1	2.3	0.4	0.4	2.6	2.0	100.0 (2,033)	<u>45.3</u>	52.8	18.8	29.1	2.2	0.3	0.7	1.8	2.0
西多摩	100.0 (250)	16.0	80.4	40.0	36.8	2.0	－	－	1.6	3.6	100.0 (250)	<u>45.6</u>	51.2	18.8	28.8	1.6	0.8	0.4	0.8	3.2
南多摩	100.0 (605)	12.4	86.0	37.0	43.3	2.8	0.3	0.7	1.8	1.7	100.0 (605)	<u>40.3</u>	58.0	20.7	32.6	2.6	－	1.0	1.2	1.7
北多摩西部	100.0 (260)	17.3	80.4	32.7	42.3	2.7	0.8	0.4	1.5	2.3	100.0 (260)	<u>46.2</u>	51.9	18.5	28.5	3.5	0.4	0.4	0.8	1.9
北多摩南部	100.0 (515)	17.3	80.6	33.8	40.4	1.7	0.6	0.4	3.7	2.1	100.0 (515)	<u>47.4</u>	50.5	17.9	27.2	1.7	0.4	0.8	2.5	2.1
北多摩北部	100.0 (403)	11.7	87.3	35.5	45.4	2.0	0.5	0.2	3.7	1.0	100.0 (403)	<u>49.1</u>	49.4	17.4	26.8	1.5	0.2	0.5	3.0	1.5

	保健所・保健センター※1									民生・児童委員（主任児童委員）※1								
	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か つ た か ら	必 要 な か つ た か ら	利 用 し に く か つ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か つ た か ら	必 要 な か つ た か ら	利 用 し に く か つ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	38.6	59.3	19.5	35.2	1.6	0.7	2.4	2.0	100.0 (6,730)	3.2	94.6	37.9	49.6	2.1	0.6	4.4	2.2
区部	100.0 (4,697)	<u>39.7</u>	58.2	19.8	33.7	1.5	0.8	2.4	2.1	100.0 (4,697)	3.1	94.6	38.9	48.2	1.9	0.7	4.9	2.3
区中央部	100.0 (349)	40.1	57.0	17.8	35.5	0.6	0.3	2.9	2.9	100.0 (349)	3.2	93.7	34.1	51.9	2.3	0.6	4.9	3.2
区南部	100.0 (575)	35.3	63.7	22.3	37.0	1.9	0.3	2.1	1.0	100.0 (575)	3.7	95.1	40.7	48.9	1.9	－	3.7	1.2
区西南部	100.0 (629)	31.3	66.6	25.1	33.7	2.1	1.7	4.0	2.1	100.0 (629)	3.0	95.2	44.0	42.4	2.4	1.4	4.9	1.7
区西部	100.0 (785)	43.3	55.5	19.0	32.2	1.3	1.3	1.8	1.1	100.0 (785)	3.3	95.5	36.4	51.8	2.2	1.4	3.7	1.1
区西北部	100.0 (1,033)	43.3	54.7	19.4	30.9	1.5	0.6	2.3	2.0	100.0 (1,033)	3.2	94.4	38.7	45.5	2.1	0.7	7.4	2.4
区東北部	100.0 (645)	43.3	53.8	15.5	33.8	1.4	0.8	2.3	2.9	100.0 (645)	2.6	94.6	36.9	51.0	1.1	0.8	4.8	2.8
区東部	100.0 (681)	37.7	59.2	19.4	36.1	1.6	0.3	1.8	3.1	100.0 (681)	2.8	93.4	40.2	48.0	1.5	0.1	3.5	3.8
市・町・村部	100.0 (2,033)	<u>36.2</u>	61.9	18.7	38.7	1.7	0.4	2.5	1.9	100.0 (2,033)	3.4	94.6	35.4	52.8	2.6	0.4	3.4	2.0
西多摩	100.0 (250)	48.0	48.0	14.4	31.2	0.8	0.4	1.2	4.0	100.0 (250)	5.6	90.4	36.8	48.8	2.4	－	2.4	4.0
南多摩	100.0 (605)	33.9	64.5	20.0	39.5	1.8	0.7	2.5	1.7	100.0 (605)	2.5	96.0	39.3	51.1	2.3	0.7	2.6	1.5
北多摩西部	100.0 (260)	32.7	66.5	18.8	43.5	1.9	0.4	1.9	0.8	100.0 (260)	3.1	95.0	34.6	54.2	2.3	0.4	3.5	1.9
北多摩南部	100.0 (515)	38.6	59.2	18.6	36.1	1.9	0.2	2.3	2.1	100.0 (515)	2.9	95.0	33.6	52.8	3.9	0.4	4.3	2.1
北多摩北部	100.0 (403)	31.5	67.2	19.4	42.4	1.5	0.2	3.7	1.2	100.0 (403)	4.2	94.3	31.5	56.8	1.5	0.2	4.2	1.5

表Ⅲ-3-12 子育て期における相談窓口の利用の有無及びその理由―地域別（続き）

	都立小児総合医療センターこころの相談窓口※1									乳児家庭全戸訪問事業※2 (こんには赤ちゃん事業)				児童相談センター・児童相談所 ※2				女性相談センター※2			
	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	知 ら な か つ た か ら	必 要 な か つ た か ら	利 用 し な か つ た か ら	そ の 他	無 回 答	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	無 回 答	総 数	利 用 し た こ と が あ る	利 用 し た こ と が な い	無 回 答
総数	100.0 (6,730)	0.8	97.1	43.0	47.6	1.1	0.6	4.8	2.2	100.0 (6,730)	27.2	62.3	10.5	100.0 (6,730)	3.2	86.2	10.6	100.0 (6,730)	0.7	88.6	10.7
区部	100.0 (4,697)	0.7	97.0	43.8	46.3	1.0	0.7	5.2	2.2	100.0 (4,697)	27.1	62.6	10.2	100.0 (4,697)	3.2	86.3	10.4	100.0 (4,697)	0.6	88.9	10.5
区中央部	100.0 (349)	0.3	96.0	39.5	49.9	0.9	0.3	5.4	3.7	100.0 (349)	30.1	55.9	14.0	100.0 (349)	1.7	84.2	14.0	100.0 (349)	0.3	85.7	14.0
区南部	100.0 (575)	0.7	98.4	46.6	46.6	1.0	0.2	4.0	0.9	100.0 (575)	26.8	65.4	7.8	100.0 (575)	4.3	87.3	8.3	100.0 (575)	1.2	90.3	8.5
区西南部	100.0 (629)	1.0	97.5	48.8	41.5	0.3	1.4	5.4	1.6	100.0 (629)	25.1	64.7	10.2	100.0 (629)	2.4	87.3	10.3	100.0 (629)	0.2	89.5	10.3
区西部	100.0 (785)	0.8	98.0	42.4	49.4	0.9	1.3	3.9	1.3	100.0 (785)	27.4	62.7	9.9	100.0 (785)	3.2	86.8	10.1	100.0 (785)	0.8	89.0	10.2
区西北部	100.0 (1,033)	0.9	96.9	43.1	44.8	1.4	0.4	7.3	2.2	100.0 (1,033)	31.0	60.1	8.9	100.0 (1,033)	3.2	87.6	9.2	100.0 (1,033)	0.5	90.4	9.1
区東北部	100.0 (645)	0.8	96.6	41.7	47.3	1.1	0.9	5.6	2.6	100.0 (645)	30.1	58.9	11.0	100.0 (645)	3.4	85.1	11.5	100.0 (645)	0.8	87.6	11.6
区東部	100.0 (681)	0.6	95.4	43.8	46.5	0.9	0.1	4.1	4.0	100.0 (681)	18.8	69.2	12.0	100.0 (681)	3.8	84.4	11.7	100.0 (681)	0.4	87.7	11.9
市・町・村部	100.0 (2,033)	0.8	97.1	41.2	50.5	1.3	0.4	3.7	2.1	100.0 (2,033)	27.4	61.6	11.0	100.0 (2,033)	3.1	86.0	10.9	100.0 (2,033)	0.9	87.9	11.2
西多摩	100.0 (250)	1.2	94.4	43.2	45.6	1.6	-	4.0	4.4	100.0 (250)	20.4	66.4	13.2	100.0 (250)	2.8	83.6	13.6	100.0 (250)	0.8	85.2	14.0
南多摩	100.0 (605)	0.7	97.7	43.0	49.4	1.3	0.7	3.3	1.7	100.0 (605)	27.6	64.1	8.3	100.0 (605)	2.8	89.3	7.9	100.0 (605)	0.5	91.2	8.3
北多摩西部	100.0 (260)	1.5	96.9	41.2	51.2	0.8	0.4	3.5	1.5	100.0 (260)	26.5	62.7	10.8	100.0 (260)	4.2	84.6	11.2	100.0 (260)	1.2	87.7	11.2
北多摩南部	100.0 (515)	0.8	97.1	39.0	52.4	1.6	0.4	3.7	2.1	100.0 (515)	29.7	59.0	11.3	100.0 (515)	2.9	86.2	10.9	100.0 (515)	1.4	87.6	11.1
北多摩北部	100.0 (403)	0.2	98.3	40.0	52.4	1.2	0.2	4.5	1.5	100.0 (403)	29.0	57.3	13.6	100.0 (403)	3.2	83.1	13.6	100.0 (403)	0.7	85.4	13.9

(注) ※1「保健所・保健センター」・「民生・児童委員(主任児童委員)」・「都立小児総合医療センターこころの相談窓口」は「地域になかったから」という選択肢を設けていない。

(注) ※2「乳児家庭全戸訪問事業(こんには赤ちゃん事業)」・「児童相談センター・児童相談所」・「女性相談センター」については、利用の有無のみを尋ね、利用しなかった理由は聞いていない。

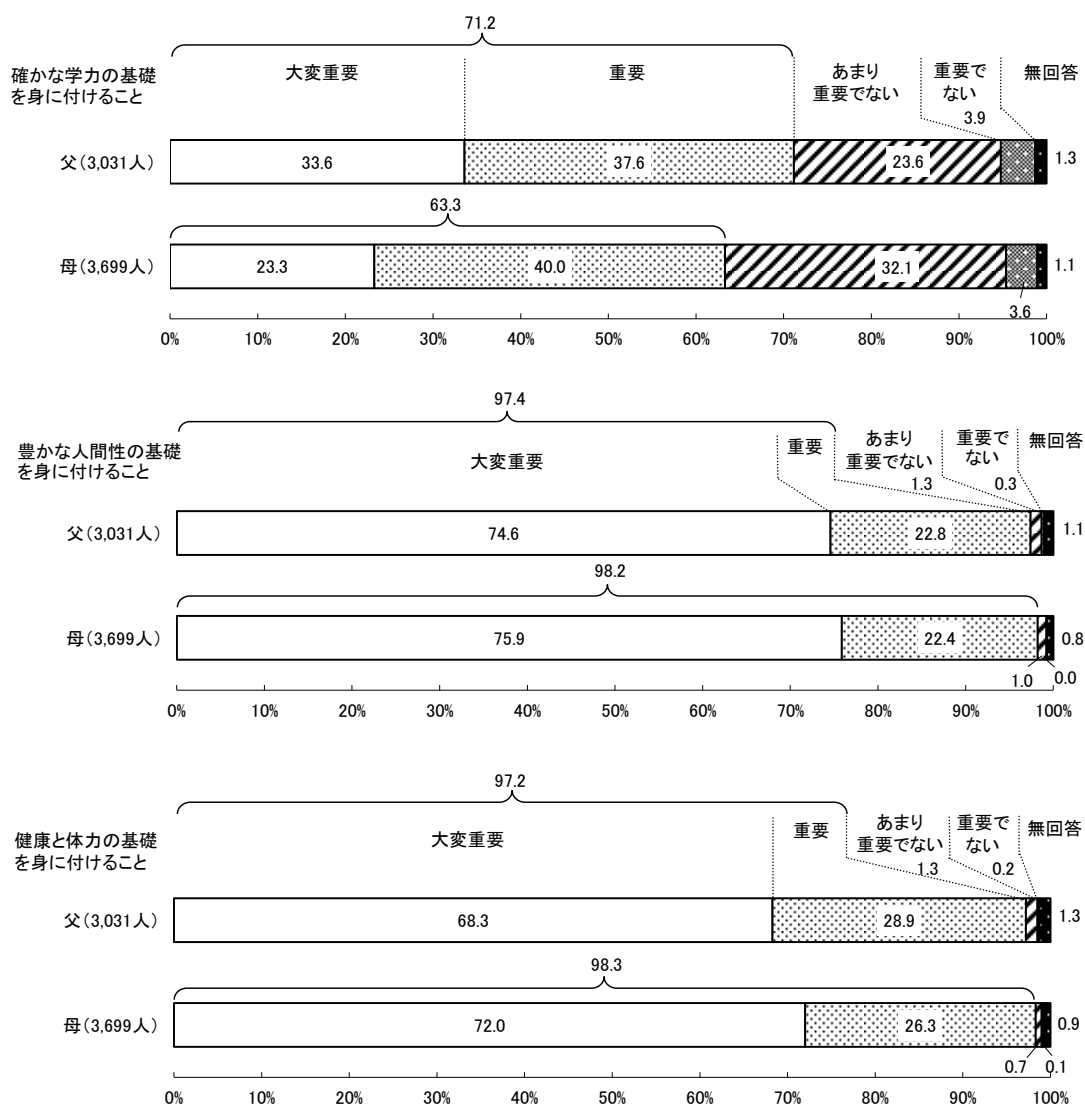
6 就学前教育の質として重要と思うこと

「豊かな人間性の基礎を身に付けること」と「健康と体力の基礎を身に付けること」をそれぞれ「大変重要」または「重要」と回答した割合は父母ともに9割超

就学前教育の質として重要と思うことについて聞いたところ、「豊かな人間性の基礎を身に付けること」を「大変重要」または「重要」と回答した割合は父97.4%、母98.2%、「健康と体力の基礎を身に付けること」を「大変重要」または「重要」と回答した割合は父97.2%、母98.3%でいずれも9割を超えている。

確かな学力の基礎を身に付けること」を「大変重要」または「重要」と回答した割合は父71.2%、母63.3%で父の方が7.9ポイント高くなっている。(図Ⅲ-3-8)

図Ⅲ-3-8 就学前教育の質として重要と思うこと



(注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。